

Universe State

始まりはビッグバンで在ったのか、「意志」に拠るものなのか、
未だ人類には解明できていません。

しかし、多くの世界的頭脳は告げます。アインシュタイン博士は「宇宙の目的」、
ホーキング博士は「ベビーユニバース」、
そしてゲノムの村上和雄博士は「サムシンググレート」と…
人体も小宇宙であると、人体の数だけ宇宙が存在するのです。
その母なる星地球を、人類は痛め続けてきました。

戦争・環境破壊・飢餓・犯罪…そこから派生する1つ1つは地球を痛め続け、
人は自分で自分を痛め続けてきたのです。
止めないのです。それでもなお止められないのです。

大宇宙の中に存在する小宇宙で在る人類、1つ1つの小宇宙は、
そろそろ大きく融合して1つの秩序ある生命体として結ばれる時がきました。
そんな小宇宙同士の集まりをUniverse Stateと名付けました。
Universe Stateを志す人達は、個々が独立した考えの持ち主です。
各自が日本と世界をどうすれば平和と安定に導けるか、
各自のプロジェクトやネットワークを有する者の集団です。

職種も医療従事者・企業経営者・教育者・公務員・専門職・主婦・学生・アーティストなど様々で、
真面目な社会生活を地道にこなしながら、
各自の時間を割いてほんの少しの遊び心と共に真剣に考えています。

わたしたちには解っているのです。
このままでは、地球と世界に未来は無いことが、次の世代に引き渡すのは難しいことが
「解っているのです」

様々な経験や体験を通して今後、世の中をどのような世界にすればよいのか、
世界中の人々がお互いを認め合い、
戦争も環境破壊も飢餓も犯罪も無く幸せに生きる事、
難しい事ですが、一步を踏み始めないと…

今こそわたしたち人類は、大きな宇宙の元、1つになる時を迎えています。
宇宙に存在するたった1つの「ネーション（国）」として…



理 念 プ ロ ジ ェ ク ト

宇宙国プロジェクト

Uni-Earth 地球で一つのネーション(国)の基礎となる理念。

地球を一つの単位として将来的に、自給圏経済、自立維持管理型産業構造による万物と万種の共用・自由公生を目指しており、日本発で国際社会に提言してゆく。近未来では、貨幣そのものの意味をも問う側面を持つ。総ての人に、安心で安全な「衣・食・住」の提言・供給を行い、人の恒久的な平和と安定・理想的な地球国家のあり方を究極の目的とした理念である。

自分とは何か、人間とは何かの気付きを初めに得る事により、本当の自分を知り、人や地球・宇宙全体の大きな視点から、これからの人や地球の在り方を見つめていく。

大宇宙の中では、地球は小さな碧い星にすぎず、総ての人が各々の天性を発揮しながら、大きく融合し、一つのネーション(国)として新しく生まれかわり・成長を促す理念である。



生き方を考えるプロジェクト

いつまで経っても無くなる戦争、飢餓や貧困、生命を脅かす地球環境破壊や地球温暖化、人を苦しめるストレスや病気、不法投棄される産業廃棄物やゴミ、幼い子供のいじめや虐待などが日常的となった。なのに人は何故、物事の判断の善し悪しがつくの、世の中は良くなるのかという疑問が深まるばかりである。よき時代、人々は人情味にあふれ情緒や風情を味わいながら、生活し、自然発生的な相互互助の精神を育てていた。しかし、奪い合いを余儀なくされる資本主義や市場経済、環境破壊を止められない産業構造、人の精神性を脅かす拝金思想や税金の在り方などで人は疲れ果ててしまった。本プロジェクトは、これらの問題を解決するべく、次世代に求められる礎を築くものである。

経済を考えるプロジェクト

市場経済は大量に物を作り、大量に消費し、次々と新しい物を作り続ける産業構造(物づくり産業構造)である。従って消費が減少し、生産量が落ち込めば景気の悪化は必至である。この経済構造を続ける限り、地球環境破壊や地球の温暖化等は到底止められるはずがない。そこで地球環境や自然環境の保護保全や改良ができる、経済構造へのシフトが今後最も重要な課題であると考えられる。本プロジェクトは、これらの課題をクリアーできる次世代の経済構造の提言を行い、現在の経済構造から次世代の経済構造へのシフト方法も提言する。

物づくりを考えるプロジェクト

物質文明とは本来、人に役立つ為であり、総ての人を公平に幸福に出来る可能性を担っている。にもかかわらず、現在の物づくりのあり方は、個人の嗜好性をベースに、飽きる事無く延々と物が生産され続けている。人は本来、物質的にも精神的にも満たされると、利他的な発想へシフトすると言われているが、今のままの物づくりのあり方では、いつまで経っても利他的な発想は生まれない。そこで人を利他的な発想が出来る、社会環境へとシフトする為に必要な物作りのあり方とは何かを検証すると共に、環境に優しい製品、自然を元に戻せる物づくりのあり方を提言する。

叡智のプロジェクト

母体である Universe State の運営を円滑に行うための、シンクタンク・プロジェクト。勉強会は、哲学・科学・医学・雑学など未来への提言と共に、人類の歴史・文化・文明・政治なども紐解くシンクタンクである。元気のない日本の「政・財・官・学会・マスコミ・メディア界・芸術・芸能界・宗教界など」の異なる世界で、その人的ネットワークをまとめる事により、21世紀のグローバルな指針を与え、まったく新しいムーブメントを起こす。地球大の高く広い視点から見た日本の役割を提唱・推進し、各々の世界において地球全体の人が賛同するような再生プロジェクトを推進する。本プロジェクトは、国内外を問わず、特定の政党・宗教・団体などに属するものではなく、あくまで総ての事に「中立」的な立場で提言を行う事を目的とする。

もくじ

もくじ	P3
まえがき	P4
I.林檎が腐る林檎箱（世の中が良くなならない本当の理由）	P5
II.自由公生主義（人として仲良く生きる考え方）	P6
III.学問と宗教は人として生きるための礎（理想社会の創造）	P7
IV.自給圏経済（地場生産地場消費型の経済構造）	P8
V.拜命社会（命を大切に社会）	P9
VI.自立維持管理型産業構造（地球環境保全型産業構造の奨励）	P11
VII.教育（魂の育成とはどのようなことか）	P14
VIII.政治（政のシステム化）	P15
IX.「自分は誰？」（解答に基づいた社会を作ろう）	P16
X.一切は創造する意図（命の集合エネルギー）が生む	P18
XI.「自己（林檎）」＋「我己（林檎に付く害虫）」＝「自我（虫食いの林檎）」（害虫の駆除機能と防虫効果を持つ林檎箱を創る）	P23
XII.ニュー・クリエーション（新創造・地球国を創ろう）	P27
XIII. Making of Uni - Earth（地球国建国へ向けて）	P33
XIV.実践する組織は何（どのような組織を作って実践するのか）	P37
あとがき（生き方を決めよう）	P49

まえがき

生きる意義や目的は、皆が楽しく仲良く暮らすことにあると思います。

平たく言えば、理想的な社会の中で「人として生きる」ということです。

自然発生的な相互互助の精神が息づいていた日本の古きよき時代には、むこう3軒両隣、遠くの親戚より近くの他人、皆が兄弟や家族同然で仲良く暮らしていました。

醤油や味噌が無ければお隣さんへ借りに行き、お返しに行くときにはお裾分けを携える。風情があり、情緒があり、人情味があり、持ち物に大差もなく、施錠すら必要なかったあの頃、人と人は魂（スピリット）で繋がっていました。

理想的な社会は、あらゆる国家や宗教が目指すところの終着点です。古きよき時代の人情味あふれる日本人に宿っていた魂こそ、21世紀において人と人を結び理想的な社会を創る原点となりえるのではないかと思います。（世界融合の根源魂）

それにも関わらず日々欧米化が進む現在の日本人は、味噌や醤油が無くなれば24時間営業のコンビニエンスストアへ走り、お金さえあれば何時でも何でも手に入れることが出来、人と関わらなくてもよい生活環境で暮らすようになりました。

これに伴い人との交流は途絶え自己中心的になり、私利私欲や私略に走り、他人が持たない物を所有する優越感に浸り、自己防衛の必要性からプライバシーの侵害や個人情報保護をのたまい、お隣と僅か数十センチほどしか離れていないマンションで、対話もないまま何所の何方か分からない人達と脆弱なセキュリティを頼りに暮らしています。

兄弟や家族同然だった隣人は今や他人となり、誰に迷惑を掛けようが関係ないと思っ

て生きられるようになりました。（魂・スピリッツの崩壊）
それが証拠に、生命を脅かす地球温暖化や自然環境破壊、動植物の絶滅危惧種の増加、戦争や略奪、犯罪の増加、核保有国の存在と核拡散、飢餓や貧困、病気や自殺、産業廃棄物やゴミの不法投棄、幼児の虐待や数々の異常精神行動などいくら身近に起こっていても、他人事として平気でいられるようになりました。（環境と心の崩壊）

この現象は収束する見込みがないばかりか今後も益々悪化することが予想され、楽しく仲良くなど到底暮らせそうもありません。

わたしたちは、人として生きる魂を失ってしまったのでしょうか。

しかし幾ら自分には、興味や関係ない他人事と違っていても、国が戦争を始めれば兵士として参戦させられ、税金が上がれば余分な労働を強いられ、地球環境が悪化すれば病気で苦しみ、失業して職がなくなれば自殺に追い込まれ、本当に他人事で済むのでしょうか。有事には自分や自分の家族や仲間だけが助かろうと思っても、時は既に遅く不幸な運命を大多数の人々と共に受け入れなくてはなりません。

本当にこのままで良いのですか？

聖職者の方々は、理想や夢を抱き日夜努力をしているにもかかわらず、学級崩壊や政治の墮落、警察官の不祥事や医療の荒廃などと非難され、坊主丸儲けなどと揶揄されて、

理想や夢や希望とは全く違う方向へ突き進んでいます。

人々は善悪を知り、理想など語るまでもなく知っています。しかし何故、世の中は良くなれないのかという疑問だけが深まります。

I. 林檎が腐る林檎箱

そこで夢が叶う理想の社会構造を、林檎と林檎箱に例えてみると大変判りやすいと思います。

林檎を人とし、複雑な林檎箱は、**主義**（共産・資本・社会・自由・民主など）と**経済システム**（物流のあり方、分配や消費の仕方）、**産業構造**（物作りのあり方）と**お金のあり方**（流通、資産や財産のあり方）、そして**税金**（公金のあり方）の五項目、これを林檎箱の構成要素（ハード）と考えます。

林檎箱を創り維持管理運営するのが、**政治**や**教育**、**情報**や**宗教**の四項目（ソフト）と考えました。

問題は現在の**社会構造（林檎箱）**が、**総ての林檎を腐らせてしまう構造**になっているところです。（総てを墮落させる社会構造）

どれだけ優れた林檎（聖職者や学者や有識者）であろうと、どれほど新鮮な林檎（子供）だろうと、いかに品種改良をした林檎（啓発された人）であろうと、良し悪しの判断がつくにもかかわらず現状に甘んじて生きる事で、やがては総ての林檎が腐敗します。それどころか、現在の林檎箱は林檎を腐敗させるに止まらず、**林檎の木（地球）までも腐敗**する構造になっています。

主義（資本主義）は戦争を、**経済（市場経済）**は大量生産大量消費を、**産業構造**（延々と継続する物づくり産業）は**環境破壊**を、**お金（拝金思想）**や**税金のあり方**（公金の不公平分配と用途）は人の魂の**墮落**を、それぞれが止められない**社会構造**となっているのです。従って**林檎箱を造り替えない限り、林檎が腐敗しなくて済む方法などありません。**

いわば全てが「力」の論理であり、理想が実現できる社会構造には程遠いことがわかります。（首相や政党が替わっても、何も変化しない理由）

また具体的な対処方法としては林檎箱を造り替えるのではなく、林檎を磨く（学習・鍛錬・訓練・修行など）、管理方法の検討（法律や憲法の改正・マナーの徹底など）、林檎の品種改良（啓蒙活動・啓発セミナーの受講・修行を積むなど）、林檎箱の空気の入替え（自然環境の改善・地球環境保護・物のリサイクル化・労働条件の改善など）や、最悪の場合が箱を維持するための林檎の廃棄（リストラ・人員削減）まで行い、対応しているつもりになっていますが、これでは根本的な問題解決にはなりません。

今日まで、このような手法は繰り返し継続されてきたにもかかわらず、良くなるどころ

ろか世の中が益々住み難くなっているのは、林檎箱を造り替えてこなかったことに尽きると言っても決して過言ではありません。

今後は林檎箱の基本構造である**資本主義、市場経済、物づくり産業構造、拝金思想と税金制度を替え、理想的な社会を創る**ことが急務であると考えられます。(①物質的問題の解決)

そしてもう一つの疑問があります。理想社会を創らなくてはならないことを知りながら、何故理想が達成できない社会構造を創ったのかということなのです。

この疑問を解く鍵は「自分は誰？」を解くことにあります。「自分」とは何であり、何所から来て、どのように生きて、最終的にどうなればよいのかを人類の総ての叡智を結集して、答えを導き出さなくてはなりません。そして導き出された答えに基づいた政治や教育、情報や宗教のあり方を決める必要があります。(②精神的問題の解決)

前述の二つの問題を解決し、理想的な社会を造るには、犠牲者や痛みを伴わず問題なく林檎箱の造り替えをする合理的な手法が望まれます。

そのためには、どのような林檎箱を造るかを先行して示唆する必要があり、資本主義に替わる次世代の主義とは何か、市場経済に替わる次の経済は何か、お金と税金のあり方をどのように替えるのかを先に示し、これを維持管理するための政治や教育、情報や宗教はどのようにあるべきなのかを示さなくてはなりません。

また理論や提言だけではなく、理想的な林檎箱を**実際にモデル的なコミュニティとして造り、見て体験できることが望ましい**と考えます。そうでなければ、人々はどのような林檎箱が出来上がるのかがわからないため不安を覚えるからです。(グランドデザインとファイナルビジョンは先に示す必要がある)

林檎箱を造り替える際、過去の歴史を振り返ると革命や戦争など、痛みや流血を伴うことが多々ありましたが時代は既に 21 世紀、高度な文明力を持ち地球レベルでリアルタイムに大量の情報が皆で共有できる時代背景を考慮したとき、今までとは全く異なる洗練された方法で林檎箱を造り替えたいものです。

次項では、次世代の主義や経済構造、産業構造やお金や税金のあり方、また政治や教育、情報や宗教について理想的と思われるアイデアを提案させていただきます。

II. 自由公生主義 (人として仲良く生きる考え方)

資本主義社会は、略奪が基盤にあるため争いが絶える事はありません。資本主義ではより多くの資本を稼ぐ事と、資本力から生まれる**特権意識による人との差別化**を助長する傾向があります。(優劣差別型で生産効率、利益率、経営力などに重点が置かれる)

資本主義社会では幾ら詭弁を弄しようが、いずれは究極の**不公平社会**にならざるを得

ません。そして**他人と違いがあればあるほど奪い合いは激しくなり**、何時まで経っても争いが絶えることのない**戦争主義**といえます。

従って資本主義であり続けることは、戦争を無くし、貧困や飢餓や病気で困窮している人々の救済を速やかに行う事や、人としての**公平**を中心とした理想的な平和社会は作れません。(不公平分離型で教育費や医療費や福祉費がカットされていく原因)

そこでこれに替わる次世代の理想的な主義として提案するのは**自由公生主義**です。

自由公生主義は**公の下(開示された社会)**で法と秩序を守る中、仕事と責任を分担し、個々の自由を尊重し、**物と利権の共用と、情報と責務を共有し、安定した生命維持活動と自由で公平な平和社会を創る平和主義**といえます。(公平一体型で生活、医療、福祉、教育などに重点を置く)

また自由公生主義における自由とは、法律やマナーを守り、各人が備え持つ「人に役立つ才能(天性・本当にやりたい事)」を存分に発揮できる事を言います。

そして公生とは、共用する物や権利に差が無く人として同等である事を言います。

自由公生主義は**支配階層の存在や身分の高低が無いこと、永遠に物を生産し続けることが無いこと**や、お金を得るための強制的な労働がないことなど、**過去の共産主義とはまったく異なり**、本質的に**公平な社会の下で力を合わせ人として如何に楽しく生きるか**をテーマとします。*本来ならば**公平**ではなく、**公明**がより相応しいのですが、日本の政治政党の名前として使用されているため本文では**公平**を用いています。

Ⅲ. 学問と宗教は人として生きるための礎

世界には学問や宗教が数え切れない程あります。しかし**学問や宗教の究極の目的とゴールは、それほど沢山ないと考えます。**

即ち学問や宗教の究極の目的とゴールは、後述の**理想社会を創って暮らすこと**にあり、これが**究極の目的とゴール**と言えるはずです。(真理は一つ)

学問と宗教の理論や教義は、理想社会を実現するための礎であり、特に宗教の場合は理想を実践することであり、総ての人の幸せを祈念すると共に感謝を学び、礼拝など規則正しい生活習慣を習得し、作法を通して呼吸法や運動法として健康維持に役立て、人の役に立つ事で徳を積むことだと思います。

しかし不思議なことに、何時まで経っても世の中が良くなれないばかりか、**解釈の食い違いによって戦々恐々**としている現実を見ると理解に苦しみます。

この原因は学説や論説や教義がいくら理想的で立派であっても、**実践できる社会構造(林檎箱)**になっていないことにあります。つまり人々を幸せにするためにあるべきものが、それぞれの組織や団体の利益や知名度や支配権の確保など、他と違いを付けるこ

とにエネルギーを注がなくては、維持が出来ない仕組みになっているということです。

従って新しい社会構造に造り替えない限り、如何に素晴らしい理想論が展開されても、実現することはありえないのです。

また一つの組織や教団などで総ての人類の融合を行うことは非常に困難極まりなく、学派や異教という枠を超え、「人として生きる」ことができる理想的な社会を提案し、「人として生きる」という大きな枠組の中で融合することが望ましいと思います。

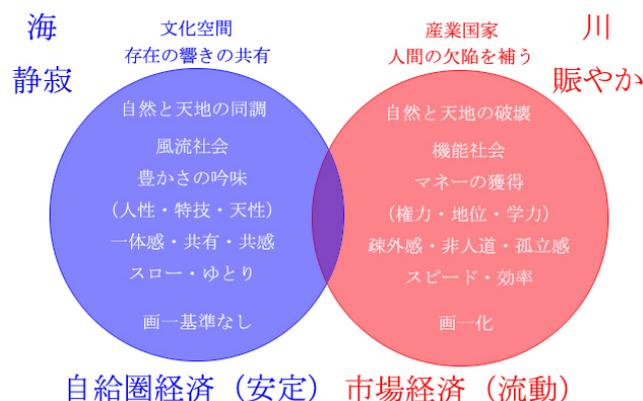
例えば近年 NPO 法人が大変増えてきましたが、各種の法人や団体は、自分たちの実践活動がコミュニティの中のどの分野で役立つ事が出来るか役割を見極め、役割ごとにリーダー会合（実践者会合）を開催し、各々の活動分野での究極を追求し、コミュニティ内の理想と呼ぶに相応しい生活様式や文明や文化のスタンダードを提言することが重要なのです。（実践によって培った叡智の集大成）

IV. 自給圏経済

市場経済は大量生産と大量消費を続けることで成り立つ経済であり、地球温暖化並びに自然環境破壊を避けることは決してできない環境破壊型の経済システムです。

例えば今後急速に市場経済を基盤にして BRICs（ブラジル、ロシア、インド、中国）が、先進 6ヶ国 G6（米国、日本、イギリス、ドイツ、フランス、イタリア）と並ぶか超えるような発展をすれば、地球は必ず滅亡する事が予想されるということです。

そこで地球温暖化を抑止し、自然環境を改善し、環境保全ができる 21 世紀に相応しい理想的な経済システムへのシフトが必要不可欠です。



まずは宇宙船地球号を沈没させないためにも、市場経済に替わる次世代の経済として最低限求められることは以下のことではないかと考えます。

- ① 生産効率重視ではなく、自然環境保護や畜産や養鶏における大量感染防止を目

的とした「循環型の農林水産業」のあり方が望ましい。(スローフード)

- ② 地球環境を恒久的に保全できる物流は、物資や資源を遠方より、または遠方へ、搬送しない方法が望ましい。(地場生産地場消費)
- ③ 物品の要否をすみわけ、個人嗜好ではなくユニバーサル嗜好で必要な物を、必要な量だけ限定生産し、共用を条件として永久的に使用できることが望ましく、延々と大量生産および大量消費を続けないことが好ましい。
- ④ 使い捨てや耐久性のない物(リサイクル品やリユース品など)の生産ではなく、完全サイクル的な発想であるゼロミッションの達成が好ましい。(生態系や人体に悪影響を及ぼす物の全廃)
- ⑤ コミュニティ単位で、快適で安全な衣食住(機能性重視の衣類、自然栽培の食材、シックレスな建材の利用と防災性を重視した住宅)の公平な共用と、食糧や水やエネルギー(温水の利用、オールタイムでの電気利用が可能)などの完全需給が望ましい。(物と権利の共用)
- ⑥ 個人が労働と子育てに明け暮れるのではなく、社会全体で仕事と責任を分業と分担でまかなうことで休養が十分に取れ、ストレスや不安の無い安定した生活を送れる経済が望ましい。(労働に対し稼働人口が少なくてすむ社会システム)

まとめますと、物の共用を基盤に文明の要否をすみ分け、耐久性に優れた必要な物を必要なだけ生産し、無害で安全な衣食住やエネルギーを、地場生産地場消費と自主的交易で需給する経済システムを備えるコミュニティの確立を行う。(縄文文化と近代文明の融合)これを称して自給圏経済と呼びます。

V. 拝命社会

近年、お金さえあれば何でも出来ると考える人の増加と、**お金が無ければ衣食住が成立せず、生計を立てることも、遊ぶことも出来ない現状**によって、窃盗や恐喝、不正行為や違法行為、身内にまでも保険を掛けて殺害するなど、罪を犯してでもお金を得ようとする傾向が強くなりました。人の意識は明らかに、命よりもお金を重要視するようになったと思います。(物や金を神と崇める)

いわゆる金のためなら何でもする拝金主義者の増加により、宇宙船地球号のパイロット(地球人)としての良識の欠落を招いています。この原因は、**お金と税金のあり方**に**問題があるために招いた人の魂(精神性・スピリット)の荒廃**と考えられ、理想的なお金や税金のあり方について早急に再考する必要があります。

そこで人の精神性(魂)を正常化するためには、生きることの原点を問う必要性があり、これには非常に大胆な発想が必要になります。つまり**お金や税金がなくても生活が**

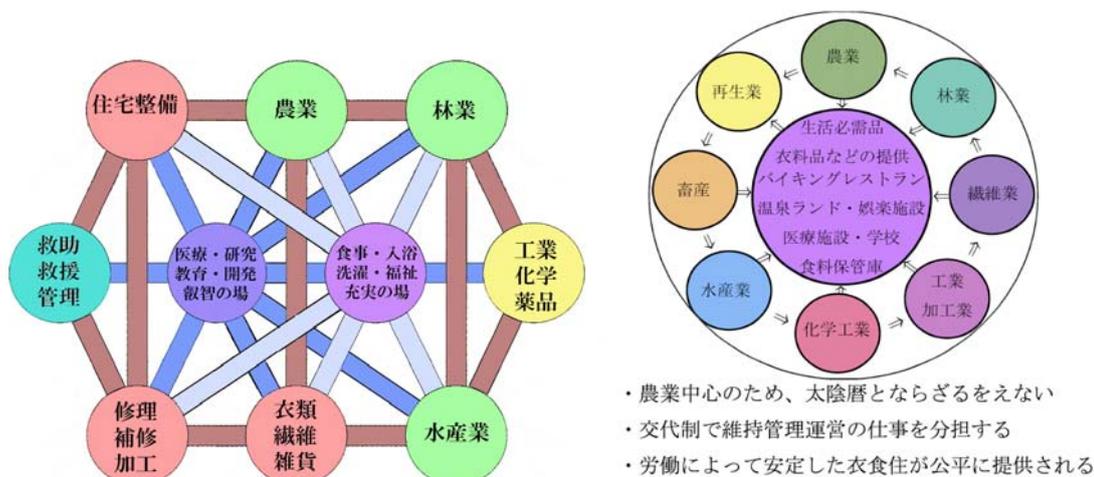
出来る生活空間を造り、生きることの原点に立ち戻った上で、**お金と税金の本質を問い直さなくてはならない**ということです。

これを実践するには**お金と税金に替わり、労働で生計を立てる生活エリア（生活特区：モデルエリア）**を、**新たな場所に造る**が必要になります。

例えば**生活特区**の中は食料受給率や生産物の供給量を考慮し、農作物生産エリア、機械生産エリア、衣料品生産エリア、陶磁器生産エリアなどを設けて分業し、自らの適性（天性）で職種を選択し、決められた仕事と責務を分担し、生命維持の為の労働を行うことで衣食住を確保し、生計をまかなう事が出来ます。（ワーキングパス制・究極のパーマカルチャー）

生産物などはコミュニティの中心に集めて保管管理を行い、何時でも誰でも公平に食事や衣料品、生活必需品などが提供される公共共用施設を備えます。

また各住宅は家族構成に見合ったサイズを用意し、便利で耐久性のある家具や調度品や電化製品などを標準装備し共用するシステムを作ることで、優れた文明力に支えられた安全で快適な家に公平に住む事ができるようになります。



これによって**自らの能力以上の仕事や、自らに不向きな仕事をする**ことで受ける**精神的抑圧（ストレス）**を予防し、**地場生産した新鮮で安全な食材を摂取**することで**健康維持と増進**を図り病気を予防することも可能になります。（これが究極の予防医学）

主だった労働や維持管理はロボットやコンピューターに任せ、人は何らかの創造性や生産性のある仕事を才能（天性）に合わせ選択し、責任と仕事を公平に分担し、ローテーションでこなすことで十分な余暇（天命）を過ごすことが可能となります。

またこれと併せてエコツアーなどを実施して自然の中で生きること、遊ぶことを通して魂を浄化することで心も癒され、人として生きている喜びが実感できる生活環境を作ることが出来ると考えます。（綺麗な林檎が育つ林檎箱が出来ると）

この生活圏で暮らすことで**お金がなくても生きられる**ことを理解し、自然環境保護の必要性を体験し、人間関係を重視した生活が必要である事を学び、物質的にも精神的にも

も和が最も貴いことを理解できるようになります。

そのためには、お金がないと生きていけないと思い込んでいる、常識を覆す強烈なインパクトを与えるような手法を採らない限り、人の魂は正常には戻れないのです。

これをお金ではなく、**命を尊厳（拝する）**して生きる**社会**という意味合いから**拝命社会**と呼びます。（自己実現が叶い、平安な生活が送れる環境を整える）

VI. 自立維持管理型産業構造

延々と物を作り続ける産業構造では、いずれ地球を壊しきってしまいます。

そこで**地球環境破壊の防止**を考慮した場合、**物を延々と作り続けない産業構造**が必要になります。（破滅を食い止める具体的方法の提案）

例えば延々と物を作り続けない新たなコミュニティを造り、物質文明をすみわけ、個人の嗜好性よりも機能性や耐久性、利便性や審美性を重視し、デザイン的に洗練された必需品を、必要最大限（総ての人で共用できる必要量であり、稼働率に基づき過不足がなく誰もが不自由なく利用できる保有量＝必要最大限）生産し、その後、維持管理へと切り替え、コミュニティごとに製造物の保守点検と維持管理運営を行えば環境破壊を食い止める事が出来ます。

物づくりを継続し続ける労働力を、物を必要量生産した後に維持管理運営へ転換し、維持管理運営を行う事を自立維持管理型産業構造と呼びます。

物の嗜好性は千差万別であり、総ての人の嗜好や用途に合わせて無秩序で無制限に物を作る事は、地球環境という物質的限界から考えても事実上不合理です。

また人はどのような物を作っても、いずれは飽きる（又は個人の寿命が尽きる）という点も考慮することが大切です。

人は満ち足りた時に、初めて利他的な発想が出来るとも言われていますが、満ち足りるどころか限りがないということに気付く必要があります。

それというのも**個人消費をベースとした経済構造であるが為、飽きさせることが無いように次々と品物が作られるからであり、これが物質至上主義を生み何時まで経っても人々が利他的な発想を出来ない原因**となっているからです。

このままでは魂が完全に腐敗してしまいます。

そこで**究極の物づくり**を行い共用し、物に対する執着心と拘りから脱却できるシステムを作る必要があります。（魂至上主義へシフト）それには最新で最高の技術が必要になり、各企業は得手不得手を補い合い究極の物作りを行わなくてはなりません。

例えばコミュニティ内では先の嗜好と同様に、**総ての人を教育や躰でコントロール出来ないことを考慮し、個人に車を所有させ法規を守らせるのではなく、基本的な交通ル**

ールはコンピューターやロボットに任せ、交通違反や事故の防止を行い、クリーンでエコロジーな究極の車を稼働率に基づき必要最大限の生産を行い、乗車人数に合わせ何時でも何所でも誰もが利用できる交通網を造り、乗車場所から目的地までをコンピューターで運行することが望ましいと考えます。(法規のシステム化)

またシャネルやエルメスなどのバッグや小物がデザイン的にも機能的にも本当に優れたものであるならば、それは総ての人にとっての必需品と言えるはずで

す。本物故に総ての人に公平に使ってもらえる事ができる、これこそが究極の物づくりのあり方と言えるのではないのでしょうか。(皆が持てば残るのは本質だけ=所有する意義が問われる)

理想的なコミュニティを新たに造り、物づくりを続けなくても良い環境(生活特区)を確保し徐々に移り住み、維持管理や修理に必要な部品の生産ラインをコミュニティの中へ移設することで、無限に続く物作り産業から脱却することが出来ます。またこれによって初めて地球環境破壊に歯止めを掛けることが可能になります。

今日までのような浄水器や空気清浄機など機械文明に頼る生活環境の改善方法では、材料を調達し組み立て、機械を生産し輸送することでかえって環境破壊を進めます。いわゆる市場経済万能、経済成長至上主義のままでは間違いなく地球環境を壊しきってしまうということです。

自然環境を元に戻し自然が備える自浄性を高める必要性は誰にでも理解できます。しかし問題はこれを実行すると大量生産と大量消費頼みの市場経済論理と、物づくり産業構造の原理に反するため、何時まで経っても理想的な自然環境は造れません。これが良くない事が分かっているにもかかわらず止められない経済構造と産業構造であり、林檎が腐る林檎箱になっている所以です。

医療も医療行為(治療行為)を極力必要としない社会環境を作ることが最終的な目標(本業)です。しかし現実には、医療器械や知識や技術は日進月歩していますが病人(罹患患者数)は益々増加し、医療費も年々増加しています。

この矛盾も医療が市場経済の中にあり、医療行為を施せば施すほどお金が儲かるシステムになっているからと考えられます。(医院経営という発想)

つまり市場経済のまま本業を極める努力をすれば、言う事と行う事に矛盾が生じるということです。正論を貫き通す事をすれば必ず失業又は廃業へ追い込まれるシステムになっているということです。即ち市場経済は作り、売り、行うことで生活の糧となるお金を得る事が出来るシステム故に、綺麗ごとでは生きられないのです。

また軍需産業において核兵器は誰もが良いとは思っていません。しかし、核兵器を製造している人々にも家族があり子供もいます。核兵器に反対することは簡単ですが、核兵器の製造に関わる人々の生活面の保障まで考慮することは難しいことです。

これを解決する為には、例えば代替職業の提案または代替生活圏(エスケープエリア)の提供まで行わなければより良い改革とは言えないのです。

当然のことですが戦闘兵器を必要とする社会環境があり続ける限り、戦闘兵器を捨てることは出来ません。同様に大量生産大量消費依存の市場経済である限り、生産量を減らすことや生産を中止することで自然環境の保護を行うことなど到底出来ないということです。

従って戦闘兵器を必要としない社会システムの提案、つまり戦争をしなくてもよい社会のあり方の提案や、生産量をセーブし自然環境保護が出来る代替経済システムの提案など、本質を極めることができる世界へ作り替えることこそが本当（根本的）の問題解決に繋がるということです。（詭弁は無用、本音で生きる）

しかし、今は未だお金が無いと生きられない現状や利権構造社会に甘んじる精神構造（魂）で居るので、これらの社会構造改革を行うことなど到底なせる業ではありません。

そうするとまずどのようにして人の精神構造（魂）を替えるのかが問題になります。

そこで具体的に魂を替える方法としては、「自分は誰？」という究極の謎を解き目覚めることではないかと思われます。（第一は精神の立替）

そして「自分が誰？」なのかの解を基盤に物質的な問題解決を目指し、新たな場所（エリア）に理想的なコミュニティを創り、徐々に移り住みながら古い社会（「自我」社会）から無理なく脱皮して行く事が理想的ではないかと思われます。（第二は社会、コミュニティの立替）

赤信号で待っている子供たちの脇を、要領こそ大人の特権だといわんばかりに信号を無視して渡る大人を見たとき、子供たちは教育とは何かの本質を目の当たりにすることになります。（教育やルールを学ぶ意味が解らなくなる。大人になりたくない）

大人は現状に甘んじ自分を偽り妥協して生きていけますが、純粋な魂を持つ青少年には耐え難いことなのです。魂は知っているからです。癒されても、癒されても、癒され続けなければならない環境を、何時になったら本気で作り替えるのでしょうか。

夢もなく、本音もなく、矛盾だらけの世の中を、作り替えない限り、社会現象として起きている、「ニート（Not in Employment, Education or Training= NEET）」や「フリーター（フリー・アルバイト）」や「パラサイトシングル（独身で親に寄生する生活者）」の根本的な魂の解決は難しいと思います。

よって以上の条件をクリアーするためには「自分は誰？」の謎を解き、既存の主義や経済やお金と税金のあり方とは、まったく異なった新しい主義と、経済システムと、産業構造を備えるコミュニティの提案と新たな場所への新設が不可欠と考えられます。

また最終的に造る理想的な社会構造（理論）とシステム（理論）を先に示し、モデル的コミュニティとして新たな場所へ実際に造れば（実践）、人々の困惑を避け安心感を提供することが出来ます。

これによって魂が替わり、理想的なコミュニティが出来、現在の経済システムと切り離されることで本業（天職）をまっとうすることが出来る地域社会が完成します。（生命維持をシステムで作り保証し、天性と創造性を発揮出来る社会）

これらのことを踏まえて社会構造改革を考えたとき、自由公生主義に基づく自給圏経済と自立維持管理型産業構造を基盤とする、お金や税金を必要としない理想的な社会（生活環境）を、コミュニティ（生活特区：仮称 Uni - Earth City・U.E.C.）として新天地へ建設し、「LOHAS（ロハス）：Lifestyles Of Health And Sustainability」的な発想である健康で地球環境を意識した持続可能な経済社会の実現を行うという選択肢があってもなんら不思議ではないはずです。

Ⅶ. 教育（魂の育成）

Uni - Earth City で生活する術を身に付けるには、3つのポイント（New3S）を中心とした実学の教育が必要です。（機械的な頭の使用や知識量の競争ではなく、叡智や創造力を育て、人のために役立つ頭の利用がテーマ：Uni - Earth education）

- ①「システム（安定した衣食住と文明維持を恒久化する仕組み作り＝理想社会を維持管理運営するシステムの確立と政治のシステム化）」
- ②「サイエンス（高度文明の達成と、恒久的に維持管理する科学力＝究極の科学力）」
- ③「センス（人知を超えた一人ひとりに備わっている天性の発揮＝天職への就業）」

簡単にまとめますと、基本は幼児から老人に至るまで体験と体得による生涯学習と実践が理想であると考えます。

例えば**幼児期**には、創造性の発揮と温故知新（叡智の伝承）をシルバー層より子供に継承する幼老園を作り、子供と老人が共に遊びながら学べる環境を設けることで、人と人の関わりを生活の中で実践することが出来、老人（弱者）を敬い、どのような人とも仲間になる心を育む事ができる基礎を作ることです。人としての生き方を教え、思いやりや感謝、奉仕の精神や礼儀作法など、**礼節を身に付ける**ことにあります。

小学校では、デスクスタディのみならず、体力の増強や健康維持増進を兼ねて野外学習を行い、自然に触れることで生態系との係わり方を体験し、他の生物とのかかわり方を学ぶことや、サウンドやアートなどによる情緒育成や、読み書き算数と正しい言葉使いなどを学びます。即ち他の人や他の生物の役に立つ人となるように育て、徳義を身につけ**感性を磨き忠節を知る**ことにあります。

中学校では自給圏経済と自立維持管理型産業の要となる、衣食住の維持管理に関する基礎知識の習得と、各職場の見学と体験学習を通して天職を探し、各自が本当に望む職種を選択する期間を設け、**天性の把握と天分を知る**ことにあります。

高等学校では、天性に合った職業の選択と専門知識を身に付けます。またより高度な健康維持と管理方法を習得するため、各自が医学に関する基礎と診断に役立つ知識を身につけ、医療行為を極力必要としない生活環境を確保します。即ち学問の究極を悟る期

間に当たり、**天性の発揮と社会貢献を体得**することにあります。

大学では社会に役立つ発明や各エリアで維持管理しているロボットやコンピューターの改良、農作物の品種改良などを行い、高次元な自然環境の保全と健康の維持管理などの充実を図ります。**超高度な文明維持には、欠くことができない創造性の発揮**を促します。(幼小中は一貫教育、高は専門職養成、大学は研究機関)

18歳より60歳の42年間を労働適正年齢とし、その後は希望者による幼老園での叡智の伝承、小中高等学校の非常勤講師、大学で後進の指導、趣味クラブの先生など、人の役に立てる活躍の場を提供します。

また在宅訪問介護士による巡回ホームケア・サービスなど、充実した社会の中で年金に頼ることのない、生活保障と教育と介護が密着した環境で生涯暮らすことが出来、自らの存在価値に感謝すると共に喜びに満ちた生涯を送ることができます。

教育は実学であり、物質的にも精神的にも公平な社会を維持管理運営し生きる術を学び、自由な創造性を発揮できるように能力意識開発を行うことが理想であると考えられます。(智育・徳育・食育・情育・創育・体育などのバランスが大切)

Uni - Earth City を創り育成(化育)することは、単に物質的なユートピアの創造のみならず、人としての資質(人精)を開花させ**精神性を立替、維持するためのシステム作り**なのです。(受験制度を核とする現在の教育構造の中では、理想を叶える教育はできない為、新たなエリアを設けて行う)

VIII. 政治 (政のシステム化)

政治は国民のためにあり総ての人を公平に扱い、困窮する人のいない社会を創ることにあります。

従って**政治を完全にシステム化(ガラス張り:あからさま)**することが出来れば、人々の生活を安定させ恒久化することが出来ます。

それには**政治を公平と共用を基盤に、個人や企業や特定集団が利権を占有しない理想的な維持管理運営システムへ移行**することが出来るかどうか**が鍵**になります。(私利私欲や私略に利用されない対策は政治のシステム化)

先の自立維持管理型産業構造で述べた交通システムのように、政治を人の思惑で左右されず**ガラス張り**で、総ての人によって監督できるシステムとして作る事が重要です。

この問題も大規模な国家を基準にして考えると、システム化など非常に難解を極めることが予想されます。そこで、小さなモデル的なコミュニティ(極小単位の政府)である **Uni - Earth City** に置き換えて考察してみれば容易になると思います。

例えば現代のコンピューターやロボット技術を駆使し、政治(立法・司法・行政)を

新たに創る Uni - Earth City の中で林檎が腐らない林檎箱としてシステムに置換し、法律で保護し、これを万人で監視し、一人一人が責務をまっとうすることによって、理想社会を恒久的に維持安定させることが可能であると考えられます。

また政治システムを生活体系や生活習慣として、生れた時から教育を通して馴染んでおくことが重要です。そして、政治システムを利己的に悪用する者を作らない事も大切です。政治は総ての人の為であり、私利私欲や私略は御法度です。

以上で、未来をどのように替えれば社会が正常化できるかについて解説をさせていただきました。如何でしょうか。ご意見、ご感想は様々でしょうが、これを実行しない限り、世の中を本質的な理想社会へ変えることはできないのです。

何故ならば理想社会 Uni - Earth City を、システムとして創らざるを得ない根源的な理由があるからです。

その理由は、次項の「自分は誰？」の問いを解かない限り、生きることの意義や目的を見出すことが出来ず、また「自分は誰？」の答えに則した社会を創らない限り、生きる意義や目的は達成されないようになっているからです。

IX. 「自分は誰？」

「善し悪し」をわきまえながらも「善」を「善」と出来ない謎は、「自分は誰？」を解くことにあります。(究極の中枢命題への挑戦)

「自分は誰？」という問いがいくら哲学的だとか宗教的だと言われても、よりよき生き方や人生にとって大切なことは何かを考える時、どうしてもこの問いに行き当たらざるをえません。なぜならば社会構造の基礎構築の際に最も重要なテーマとなるからです。また過去の歴史と現実を再認識してみると、このテーマを無視して造られた社会は必ず崩壊していることに気付かなくてはなりません。

また人の精神性を無視して作られる社会は、人精（性ではなく本質）を狂わせ破滅へと誘われる事も同様です。(精神の立替を必要とする根本原理)

そこで再び「自分は誰？」という問いを林檎（人類）と林檎箱（社会）に置き換えてみましょう。そうすると林檎とは何であり、何所からやってきて、誰が何の目的のために林檎と林檎箱を創り、林檎と林檎箱は最終的にどのようになればよいのかという問いになります。従って問いを解く鍵は、林檎と林檎箱を創った「誰か（サムシンググレート）」と、林檎の関係を解くことにあります。

「自分は誰？」という問いは、永遠に問い続けても解が無い問いのように思われがちですが、実はそうでもないと考えられます。

みなさんは料理番組の必要性を考えたことはありますか？

その必要性はどのような料理であっても、料理を作った者にのみ材料と調理方法を教える事が出来るからです。(料理・音楽・芸術など、総てが創造の賜物)

これと同様に、宇宙の材料と成り立ちを知り、どのような世界(井戸の中)に住んでいるのかを知ることが出来たなら、わたしたちが「誰」なのかを知ることが出来ます。

宇宙という料理の材料は、元素記号表で示されるように「物(有形無形の物質・量子)」であり、宇宙を「造る意図(非物質・エネルギー)」は料理方法に当てはまります。また料理の作り方を知ったり、教えたりする道具となる「名(記号・文字・数字・言葉・名前・手話などの総称。機能としては、ロゴス・アイデア・デザインなど)」が必要です。

この「名」が欠けると、知ることや教えることなど共通認識ができないため、料理番組をはじめ、学問・研究・教育など一切ができなくなります。即ち料理の材料や調理方法を機能的に伝達できなくなるという支障をもたらすものであり、「名」は文明の進歩に不可欠でありました。(創造を具現化する素)

実は「物」と「名」は、創造力とはどのような能力なのか、そして自分が「誰」なのかの間に答えを出すための必須材料でもあるのです。

というのは実際に創造力を「物」に置き換えて具現化(物質化)し、創った「物」を認識するために「名」を用い、「創造力とはどのような力なのか」や「創造したのは誰であったのか」を、実際に確認(追体験)する必要性があったと考えられるからです。

即ち「物」と「名」は自分自身を創り、一切を体験し、一切を知るための道具であり、全学問を駆使し中枢命題(人は何所から来て、どう生きて、どうなればよいのか)を解く材料であり術ともいえるのです。

但し「物」と「名」の原点(宇宙が出来る前=起源)は、「物」と「名」の範疇には無いため、自分の正体や宇宙の起源などの真理には、学問をもってしても到達できないという結果が待っています。従って真理は、最終的に悟る以外に方法はありません。

そのプロセスは、与えられた閃きや気付き、または目覚め等様々ですが、フタを開けてみると真理は単純明快です。

何れにせよ人類は、「物」と「名」で出来た井戸の中(記号では、 α で形容)に居たということを知る事が出来る存在です。そして井戸の中に居たことが分かるということは同時に、井戸を創った者にのみ知りえることであり、そのもの自身が井戸を創ったという証明になってしまうのです。もしも、仮にこの井戸がなければ例え物質的に何があろうとも、一切の「名」が無いと、宇宙も、自分も、神仏など総ての存在が無に等しくなってしまうのです。(宇宙という名前のない〇〇とは何?)

この証明は、「人は宇宙という井戸の中の住人であるのと同時に、元々は宇宙の創造者(一片)」であることを意味します。

わたしたち一人ひとは、宇宙の創造者の一片(一部分・一人)であるがゆえに、一人だけでは決して生きることができない、全体一体で機能している生命体(人)なのです。(〇〇さんや〇〇君ではない、本当の自分)

X. 一切は創造する意図（命の集合エネルギー）が生む

ジョン・ホイラーの遅延選択実験やロジャー・ペンローズの量子脳理論など、量子力学の実験及び人体解剖による機能の解明により、物質は人の意識によって性質（成分ではなくあり方）を変えることが解ってきました。つまり人の意図と量子力学は切り離して考えることは出来ず、宇宙が物質で出来ている以上、幾ら宇宙が無限で広大なものであろうとも人の集合的意図によって変化せざるを得ないと考えられます。

これを拡大解釈した時、宇宙が生まれる根源的現象（ビッグバン又は量子的揺らぎ）は、人体の中と外にいるエネルギー体の集合エネルギー（融合有意識・ ∞ ）から発せられた創造の意図（何らかのエネルギー）と考えられます。（日の元・日の本である「自分は誰？」の解答を出す国、日本）

目に見えない小さな素粒子が充満した泥海状または砂状の量子塊から宇宙空間は出来ていて、創造の意図によって模られ物質化すると・・・・・・・・

以上より考察できることは、わたしたちの正体は人体（物質）ではないということです。人体は物質で出来ていて、その能力には限りがあります。しかし、人体も物質である限り、人の意図の影響を受け、常識では考えられないような能力を発揮することがあります。例えば超能力（透視・物質化現象）や火事場の馬鹿力などは好例といえます。

また「人体（物質）」と「自己（エネルギー体）」の違いを示唆する実験（日本の通商産業省工学技術院生命工学工業技術研究所）として、致死量の麻酔薬を注射し電子天秤に乗せたマウスが死んだ瞬間に、最大で $200\mu\text{g}$ 最低で $7\mu\text{g}$ の体重減少が見られ、 $E=MC^2$ の法則から考察すると、生体内に質量を持った何らかの「エネルギー体」の存在が確認されたことを挙げる事が出来ると思います。

この現象は既に人体でも 40g 程度の体重減少が確認されており、何らかの「エネルギー体」こそが「自己」の存在そのものであり、「自己」が生体内に入った状態と生体から外へ出た状態が体重の差として現れていると考えられるのです。つまり人体は、「人（ヒト）・自分」の乗り物と考えたほうが妥当といえます。

人体への搭乗手続きは、「エネルギー体（己）」への命名です。「エネルギー体」は命名によって個人名（名前＝自）へと変換され、繰り返し名前の呼び掛けをされることで、エネルギー体は音声（音波・振動数）に代えられ人体の脳の中へ転写（入り込む・搭乗）されると考えられます。（己+自＝自己）

ですから狼や猿に育てられたり、乳児期に軟禁状態で食べ物しか与えられず、名の呼び掛けがないとエネルギー体が入り込めないため、育ての親である狼や猿と同然になったり、人との会話が成り立たない状態になります。（13世紀イタリアのフレデリックII世による人体実験・インドのアマラとカマラ・アメリカのジェニーなど）

一方「エネルギー体」には「個人の氏名」の他に、「神仏の名前」や「サムシンググレイト」、「人」や「命」、「霊」や「魂」など、限りがないほどの命名がなされているた

めに、自己の起源（神仏や魂との関係性）を忘れ、自分と他人、宗旨宗派などに分裂して派閥争いが続いています。（起源を外に見ている）

自分の存在も「神仏」も「サムシンググレート」もこれら総て元は一つであり、元が分裂した状態で存在していることに気付かないように仕組まれています。（岩戸の扉が閉じられたという錯覚に陥る：盲者）

以上のことを踏まえて臨死体験や前世の記憶を語る人の存在、多重人格（一つの人体に沢山の人が相乗り）や体外離脱（自己が人体から離脱・幽体離脱など）、臓器移植による性格や嗜好性の激変などを考察すると、「人体」と「自己」の違いが明確になれば説明は容易になるはずで、（「魂」が留まる場所＝身体）

日本では^{せいめい}生命を二つの^{いのち}生と^{いのち}命で表現しますが、「生体」という目に見える「^{うつわ}物体（器）の^{いのち}生」と、「命」という目にみえない何らかの「^{いのち}エネルギー体（人・自己）である命」と、二つあることを示唆していると考えられます。

生（人体）の誕生は、卵子と精子が結合して子宮に着床（定着）し「人体」の形成が始まります。命（己）の誕生は、命と名が結合して脳に定着（着床）し「自己」の形成が始まります。（個人名「命名」は自分と出会う為の鍵）

従って死も二つあり、一つは物体である「人体（生）」の死であり、もう一つはエネルギー体の「命（自己）」の死になります。

しかし、命の源の一部である「自己」の死は、ありえません。「命（エネルギー体）」は人体を離れる（抜け出す）だけであり、その存在は永久不滅なのです。

即ち宇宙の始まりは、総てのエネルギー体の集合体となる「人」や「命」、「魂」や「サムシンググレート」など、どれも同じですが、宇宙創造の起源となる、大いなる融合意識（以下この融合意識の総称を**起源意識 Crystal Spirit・己**と呼ぶ）にあり、宇宙を創造した大なるエネルギー体「起源意識（実能）」が、宇宙を生み、地球を造り、地上に人体（実体）を設け、小さな脳内に命名（命を名に転換し分散化＝人類）によって、人体に入り込んでいるということになります。（哲学用語の「実体」の意味）

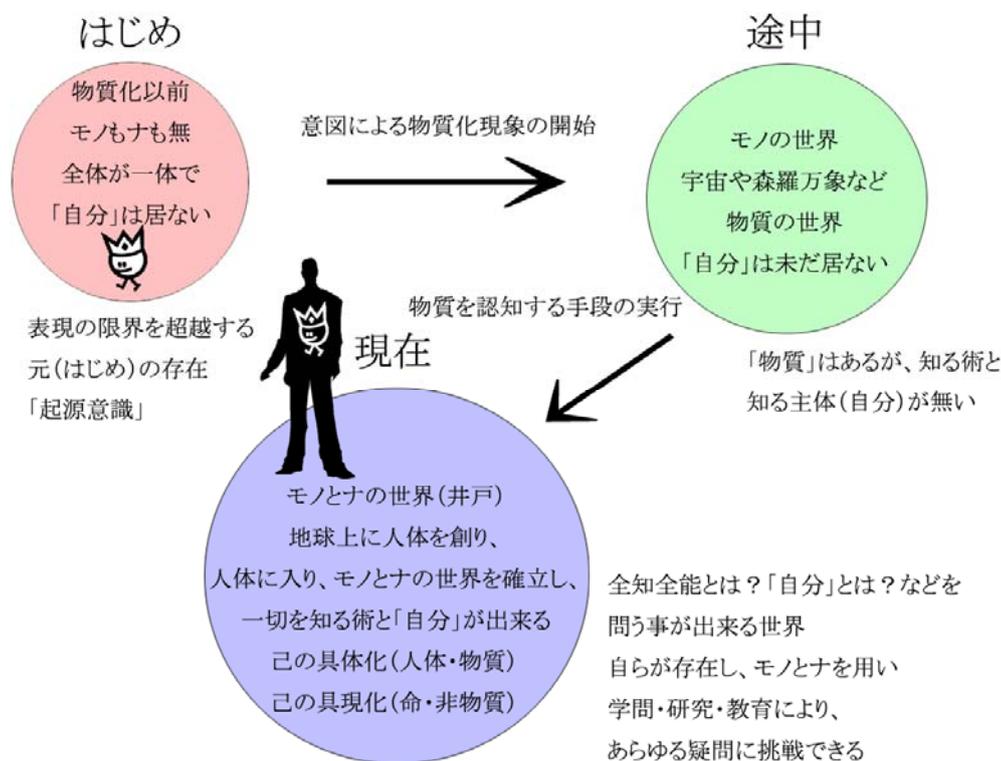
宇宙を創造する前の「起源意識」は、輪廻転生というサイクルが出来る以前の根源的な存在であり万物と万有の根本となります。

「起源意識」にしてみれば自分の中に宇宙が在る事になり、宇宙自体が「起源意識」の中で物質化して浮かんでいる状態です。つまり「起源意識」の中だけに宇宙は存在し、「起源意識」自らが完成できるように宇宙は総ての条件に満たされ、解放系のように閉鎖系であり自己自充足しています。（宇宙は「起源意識」そのもの）

その中に創った人体の中に「起源意識」自身が「名前」を用い分散して入り込んでいるため、宇宙の起源は完全に見えない状態になっているのです。（探査不能）

これは、大なるものの中に小があり、小なるものの中全てに大なる要素が含まれる、

量子力学の局所存在性原理の根源的現象（この現象がなければ量子力学すら学べない）となることを疑う余地は無いと思われます。



また宇宙には宇宙定数という数的な法則性があり、何らかの意図（「起源意識」の意図的な知的創造：インテリジェント・デザイン＝ID）が関与している事が窺えます。つまり宇宙は偶然出来たとは考えにくいのです。この世界には宇宙に限らず総てに一定の数的な法則性を見いだす事が出来、例えば DNA のトリプレットと易の三象にみられる記号配列の共通法則、血圧や脈拍数や大気圧や海の波の周期などがあります。

（わたしたち一人一人には住所という位置（配列）がありその中で生活しています。これと同様に DNA のトリプレットである AGTC にも位置（配列）があります。

つまりこの二つには共通項があると考えられ、現住所に住んで居る理由と、同様の理由が DNA のトリプレットの位置（配列）にもあるのではないかとことです。しかしこの共通項に対する理由を解明する事は学問では不可能であり、これがインテリジェント・デザイン解明の限界であると共に、学問では真理が解けない理由であると考えられるのです。

インテリジェント・デザイン（ID）を通して解る事は、必ず「数」と「法則」が使われていることです。即ち森羅万象全ては、むやみやたらには創られていないことと、何らかの知的な創造意図が働いているという事です。

これと同様に人類も、物（ビル・橋・トンネル・化学薬品）を造る時には必ず計画を立て、創造する意図を設計図や化学式などに置き換え表現し、「数」や「法則」で出来

た設計図を基に具現化（建設や製剤など物を作っている）しています。

この行為こそが、まさに創造する意図を、「名」をもって表現し、「物」を用いて具現化していることなのです。（創造行為）

普通の建造物ならばいざ知らず、東京タワーのような高層建造物にエレベーターと展望室を備え、アンテナを立て、そこからは目に見えない電波を数メガヘルツ（数）に分割し、チャンネル（数）を設け発信し、どれほどの地震に耐える事が出来るかなどを予測する事など、宇宙に浮かぶ地球と同様、偶然に出来る代物ではありません。

「数」を含む「名」を使いこなせることこそが、先の宇宙定数をあみ出し宇宙を創造している、「起源意識」のみに備わっている機能なのです。これは学問ではなく当たり前の事です。（数字・言葉・文字・記号・手話などを総称して「名」という）

つまり信じがたいことですが、宇宙の起源（宇宙が出てきた元・創造の意図の発信源＝「起源意識」＝インテリジェント・デザイナー）は、人体の中に分散した状態で存在しているということになるのです。一個人であっても「起源意識」の一部ですので、たった一人の意図にでも量子は反応してしまうのです。

日本では本人のことを「自分」と呼び、「自」らが「分」かれたと書くことで「起源意識」より分かれた事を示唆していると考えられます。

また「名」の「前」を尋ねられても「自分の名前」を告げるのが一般的ですが、これは誤りになります。「名」になる「前」なので「起源意識（表現できない存在）」と答えれば正解になります。この内容が意味不明の方は、「人体」と「自己」とが融合した状態なので解り辛いと思います。

従って「自分」というのは「起源意識（一切の束縛を受けない開放状態：記号は Ω オメガ）」内の一つである「自己（人体の中へ命名によって入り、人体の中で囲われた状態：記号は α アルファ）」です。これが「自分は誰？」の解答になります。

「起源意識 Ω 」が「自己 α 」を形成し、再び「起源意識 Ω 」に戻るサイクルを「命の無限活動 ∞ 」と呼びます。（生死・輪廻転生）

そこでまとめますと、宇宙を創った「起源意識」そのものが「人体」の中へ「命名（名付け）」により分散（自分）して入り、気付いた時には田中〇〇、鈴木〇〇となり、両名は「人間」だと教えられ「人間」になっているだけなのです。

だからこそ、田中〇〇や鈴木〇〇でもないし、「人間」でもないの、「自分は誰？」という問い、即ち「起源意識」の問いが出てきてしまうのです。

「自分は誰？」という問いの答えは、自分自身が田中〇〇君でも鈴木〇〇さんでもないという答えに行き着くからこそ、「起源意識」であるという答えに導かれて行くのです。（〇〇君や〇〇さんが「起源意識」ではないところがポイント）

ですから日本の辞書で、誕生日の「誕」という字を調べると「うそ、いつわる」などと書かれており、自ら（一個人）が生まれたことが偽りであり、「起源意識」が生まれた事（真理）に気付くように促しているかのようです。（人体が生まれたとも言える）

しかもこの問いは一個人の問いではなく、「起源意識」本人の問いであるからこそ、一人ではそう易々とは答えが出せないといえるのではないのでしょうか。

また目に見える証拠もありませんし、「起源意識」自体が表現できる範疇にはありません。表現できる以前であり、「モノ」と「ナ」の前に相当するため、「あるけどない、ないけどある」の世界になってしまいます。

以上の事より、「起源意識」と「自己」の存在は物質ではないことと、「起源意識とは何?」、「自分は誰?」という問いは同一の問いであることを見いだす事が出来ました。

60兆個の細胞から成る人体は見えても、一個の細胞は肉眼では見えません。これに対して世界人口である60数億一人一人の人体は肉眼で見えても、人体に入っている姿なき正体は一つとして目では見えないのです。(人体は鏡に映るが自分は映っていない)

だからこそ「自分とは何」という答えを求めれば求めるほど、哲学的であり、宗教的であり、神秘的で複雑な怪しい世界になってしまうのです。(オカルト的)

わたしたちは今日、自分が居るという前提で行動しています。しかし、本来は「起源意識」そのものの一部であるが故に、「起源意識」として生きない限り、人生において謎や矛盾や問題が山積みになり最終的には行き詰まってしまうのです。

また、「人間」を日本の辞典で調べると、「世の中、世間」などと書かれているところからすると、どうやら、わたしたちは「人間」ではないようです。

宇宙の始まる以前(起源意識の世界= Ω オメガ・ワールド)を礎として、「世の中や世間」(人間)を創るのは「起源意識」としての責務であるということです。つまりわたしたちは社会(人間)構造を作る側なのです。

「物質」や「名(言葉・文字・数・記号・名前など)」の前に「はじめ」があります。

「宇宙の起源」となる「はじめ(起源意識の世界)」には、日常目にしていない人体(物)も無いので、差別を生む目の色や髪の毛の色、肌の色など身体的特徴もありません。また名前(名)も無いので区別もありません。(公平な世界であることが当然=はじめの国=天界)

区別と差別は「起源意識とは何(自分は誰)」を問うために、自分の存在を徹底的に分からなくするために採用した方法であり、皮膚の色や話す言葉や体型などを変える事で違いを付けた結果なのです。

わたしたち一人ひとは、元々全体一体で機能している「起源意識の一部」だからこそ全体一体で機能できる社会を創り、「起源意識」として生きる事が理にかなっているのです。これが新しく創られるべき国の根本理念であり、理想社会を創らずをえない根源的な理由なのです。(起源意識として一つになって暮らす)即ち総ての人が「起源意識の一部=自分」ということは、一人が奴隷ならばすべての人が奴隷、一人が王ならば総ての人が王として扱われる世界を当たり前とするしかないのです。(人=起源意識としての精神性を整え、起源意識としての完成を目指す)

また一人だけ「起源意識」に戻ったつもりであっても、全体が「起源意識」に戻らな

い限りは、「起源意識」としての誠の潜在能力は発揮されないのです。（これが人の子である所以であり、「起源意識（人）」の下に融合する）

人体の中で心臓は1年中一時も休まず働いていますが、毛髪は風に揺られて何もして見えないように見えます。しかし毛髪には、人体に溜まった重金属類を排泄するという重要な役割を担っています。

即ち人も同様に遊んでいるようにしか見えない人でも、自由公平で衣食住に満たされ健やかに全体一体で生きられる社会、**Uni - Earth City**が出来た時、個々が備える重要な役割（天性・天命）を担えるようになるということです。

元は一個の受精卵が、やがて60兆の細胞に分裂して人体に成ると同様に、元は全体一体で一つであった「起源意識」が60数億人に分裂して人類の世界を形成しているのと同じことです。（全体一体）

しかし、人体ではあらゆる細胞や臓器が一体となって機能しているのに対して、人類の世界では各自の思惑で行動（機能）しています。これを頭と胴体、手と足を個人に例えるならば、頭君や胴体君、手君や足君がバラバラで動いている状態です。いわば脳（「起源意識」）の指令が聞こえない状態なので、手足（個人個人）がどのように行動すればよいか分からないということです。（狂った操り人形）

これでは一人ひとりが担う重要な才能（天性）を発揮できないまま生まれて、逝く状態の繰り返しです。（生まれる前も、生まれてからも、死んでも尚暗い状態）

有史以来、人は地球を一つの単位とみなして理想社会（理想的人間）を実現したことはありません。これは地球を、「起源意識」としての才能が発揮できる社会として創り、生きている目的やゴールの達成が出来るようにしてこなかったためなのです。

だからこそ理想社会 **Uni - Earth City** を創り世界の融合を促し、全体（総ての人・地球全域）が使命（天命）をまっとうできる社会に作り替える必要があるのです。

それには如何にして総ての人を、「起源意識」として目覚めて頂くことが出来るかが最大の課題です。

人の精神性（魂）を立て替える（入れ替えるのではなく、「起源意識」であることに気づき、「起源意識」として大地に根を下ろし、立ち上がり、「起源意識」として磨きをかける）からこそ、**Uni - Earth City** を創ることができるのですから・・・

それでは次項では具体的な立て替えの方法について述べさせていただきます。

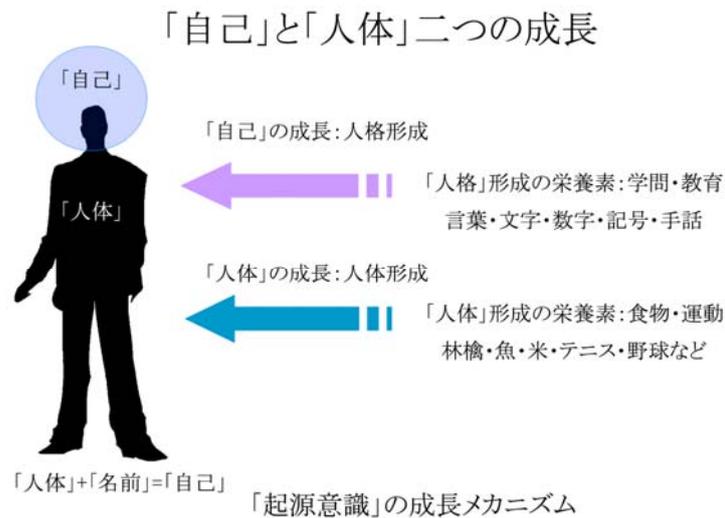
XI. 「自己（林檎）」 + 「我已（林檎に付く害虫）」 = 「自我（虫食いの林檎）」 （害虫の駆除機能と防虫効果を持つ林檎箱を創る）

昔の日本では「警察官や医者や先生である前に人であれ」とよく言われたものですが、

ここで云う「人」というのは「起源意識」の「別名」と考えられます。

しかしながらわたしたちは皆、崇高な存在である「起源意識」自らが分かれた一人ひとりであるという自覚を忘れ何故、崩壊する社会を創り現状に甘んじ、次々と問題ばかりを起し、それを解決できないのかという謎があります。

その謎を解く鍵は「起源意識」が「自我」へと成長（変身）することにあります。



初めに「起源意識（コア）」は人体に入り「人体（物質、ヒューマン・ボディ）」の成長と、「自己（魂、ア・パートオブコア）」の成長の二つの成長をします。

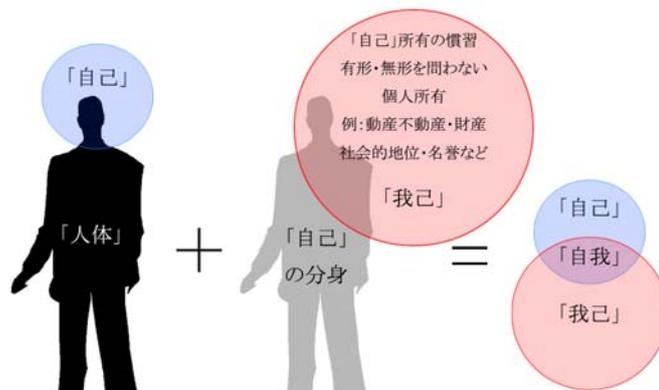
その後「自己（ア・パートオブコア）」は、社会的地位名誉、動産不動産、資産など、有形無形を個人所有するという慣習によって、損得やお金など利害関係を中心に考えて働く「我己（セルフ）」を形成します。（「起源意識」は「自己（天使）」と「我己（悪魔）」の表裏で一体の二面性を持たされることになる）

例えば自分の車などが傷つけられると、あたかも自分が傷つけられたかのように怒ります。当然、車（物・有形）は自分ではなく、単なる物であるにもかかわらず、自分と同等もしくはそれ以上の価値観を見出すことによって、物に「自己」を投影することで生まれる、もう一人の自分の存在（分身）ともいえる「我己」が生み出されるのです。（「我己」＝「自我」形成の必須材料）

この原理に基づき、車「我己」が傷つけられると怒るという現象が起きていると考えられるのです。

また物だけに関らず社長や先生など名誉「我己」や社会的地位「我己」などを得た場合には、「自己」は社長（役職・無形）になりきり、社長や先生としてのプライド（我己）が傷付けられると激怒します。

このようにして生まれた「我己」と「自己」の二つが、頭の中で融合することで「自我（エゴ）」となります。そして今では皆が「自我（天使であり悪魔のような存在）」となり、「起源意識（神聖な存在）」であることなどすっかり忘れてしまっています。



「自己」 + 「我己」 = 「自我」の確立

「自我」が形成されると、物事を考える主体が「起源意識」から「自我」へと移行する

「自我」が一旦形成されると、「自我社会」と呼ばれる「自我」を中心とした思考や判断など、利害関係で成り立つ構造社会を作ります。つまり「起源意識」が「自我」となり「林檎が腐る林檎箱」を築き上げたのです。これが「自己」に善悪の判断が付いても、誤った判断を下ださざるを得ない社会となった原因なのです。(個人「自我」中心主義)

こうしてわたしたちは不幸にして、元々争うことや奪い合うために生きている訳ではないにもかかわらず、未来永劫に渡って自然環境破壊を続け、奪い合い、争わざるを得ない社会構造の中で生きてゆかねばならなくなったのです。(自我社会という構造欠陥を生んだ)

こうして生まれた構造欠陥に疑問を持ちながらも国は、政治や経済、法律や教育、宗教や情報などを是正することも無く、今日に及んでいるということです。

わたしたちは現在、「自己」と「我己」の二つが合わさった状態の「自我」となっています。ですから誰もが「田中〇〇」や「鈴木〇〇」であると思い込み、「田中〇〇」や「鈴木〇〇」さんが、家や車を持つことで「自我」となっています。(「弁頭密二経論」の中に、総ての人は「仏(起源意識の別名)」であるにもかかわらず、それに気付いていないと記載されていることから察しが付くのでは・・・)

今日までの慣習で「自我」として学習し、「起源意識」であることを覚えても何の意味もありません。知識の一つとして覚える事と、悟り、即ち真実を素直に受け止め覚醒し、生き方をかえることではまったく性質を異とします。

自分自身が臨死体験や人体離脱を体験するわけではないので、どうしても覚えようとしてしまうのですが、要は人体と「自己」の分離が出来、人体が乗り物であることを納得し、自分の本当の正体(魂)に目覚めているかが鍵になります。ですから「自我」を「起源意識」だとして学習させたら大変な事になります。

「自我」が一旦形成されると、「自我」を中心とした例えば、金持ちであること、有

名であること、身分が高いこと、人と違いがあること、権力があることなどに物事の判断や考え方の基準がシフトすることは前述の通りです。

よって傲慢になりがちで自らが解決できない状況や問題、矛盾や謎などを次々と自らが作り、自他を分け差別し、人との関わりが途絶え、いずれ自滅するしかなくなるにもかかわらず、新しいことに興味を持ち日々の快楽を求め、限りない欲望に溺れ、争いを起こし、自らを偽り、自己矛盾に陥るようになります。

またこれに気付き「自己（自分）」を変えようと努力しても、社会自体が「自我」であり続けなければならない環境になっているため、良心を持ち、正義を知り、道徳を知り、常識をわきまえながらも、悪に身を投じるようにならざるを得ません。

これが生まれてから一度も嘘偽りや騙すことをした事が無い人が殆どいない世界になっている理由です。（「自己」と「自我」は表裏で一体）

従ってこの状態（寝ぼけ）を正常化するには、どうしても「自我」の解決（目覚め）が必要になります。

「自我」の解決には、根源的な材料となる「我己」を排除しなくてはなりません。これが「共用（「我己」という毒素の解毒：デトックス）」を基盤とする社会構造へ、たとえどのような理由があろうとも創り替えなくてはならない根源的な論拠（原理）になります。

人の精神性（魂・スピリット）が替わらない以上、理想社会の実現は達成できません。故に「我己」排除機能を根本に組み込んだ政治・経済・法律・教育・お金や税金などが整備された国を創り、生活様式を変え、魂を立て替えない限り、わたしたちの精神（魂）は元（「起源意識」）には戻れません。

具体的には、林檎を主体とした林檎にとっての快適な空間を作らなくてはならないにもかかわらず、「自我」が主体の社会になっているということは、林檎に付いた害虫にとっての快適な空間作りに励んでいることになるのです。ですから害虫が成長して大きくなり強くなれば林檎は食い尽くされるばかりか、林檎が成る木（地球）までもが食い荒らされ二度と林檎が実ることはなくなるということです。

よって人類が有史以来、一度も成しえていない「自我」形成を抑止する社会構造をシステムとして作り、元（はじめ）より備わる天性を発揮できる社会を作り、「起源意識」として生きられるようにしなくてはならないということです。

「自我」の意義は、「自我」を主体とすることで競い合い、総ての人が幸せになる為の早急な高度文明の発展を促し、高度な物質文明を獲得するための手段でした。しかし元は「自我」ではないので、やがては「自我」のままでは生きていられなくなり自滅（滅亡）へと向かうのです。

「我」とは手に^{ほこ}戈（矛）を持った状態を象形的に文字で表意し、争いの象徴として後世に「我」の始末の必要性を伝えていたのかもしれませんが。

また廃墟と化したアテネのパルテノン神殿には、「汝自身を知れ」と、同様に原爆で廃墟と化した広島の大原爆ドームの対岸に設けられた平和の鐘には、「自己を知れ」と記され、まさに「自分が誰？」なのかを解き、その答えに基づく社会を創らない限り、今度は地球が廃墟になることを案じた「起源意識」からのメッセージとは考えられないでしょうか。

従ってこれらのメッセージに気付かず「自我社会（「林檎が腐る」林檎箱）」を放置することは、「林檎が腐る」林檎箱の中に次々と新しい林檎（子供たち）が放り込まれていくことになり、総ての林檎はやがて腐敗し、林檎箱を壊し、いずれは林檎の木までも腐敗させ滅亡してしまいます。

古来日本では全体の協調性と調和を重視し「出る釘（杭）は打たれる」などといわれ、一人だけが突出することを避けてきた時代背景がありました。言うならば文明の発展に伴う「自我」の発達を抑えてきたわけです。（協調社会）

しかし、今日では「自我」の趣くままに生き、弱肉強食の社会が当たり前となりました。言わば「自我」中心に生きるようになったわけです。

当然、これ以上「自我」のままであれば、戦争の勃発や、手の付けようのない環境破壊や、犯罪を増加させる貧富の差の拡大などにより、現状のままでは物質的にも精神的にも破滅することが誰にでも容易に理解できるようになりました。

今日までわたしたちは限りない物欲を煽られ、仕事に勤しむあまり「自分は誰？」などということを問う間も無いままに、「自我」を中心として生きてきました。

今後は社会構造を替え、「起源意識」を中心に据えて、道（書道・柔道・剣道・空手など）による心身の鍛錬、スポーツや創造性（クリエイション）や芸術性（サウンドやアート）などにエネルギーを傾注して体力を養い、人が喜ぶことや、役に立つことなど、慶ばせ合うことで「起源意識」としての品格（色霊を使い、言霊を語り、数霊で遊ぶ）を養い、魂を磨き元々の崇高な存在として相応しい生活を送りたいものです。

XII. ニュー・クリエーション

「起源意識」は本来、「名」と「物」以前であるため「名前」にすら出来ませんが、それでは話になりませんので、「起源意識」という名前を命名しました。しかし元来「起源意識」の名前として最も相応しいのは、「わたし」です。「私（わたくし）」ではなくて、「和多志」が相応しく、多くの志が和したものです。（集合的融合有意識）

然るに「和多志（わたし）」が無ければ何も存在しない事に成ります。

宇宙を創造する志（意図）である多くのエネルギー体（自分）が、和（融合）したという意味です。

日常的にわたしたちは、「わたし（和多志）」という表現で「自分」を表現しているところからみると、総ての人に「わたし」を名乗らせることで、総ての人が「わたし（起源意識）」であることを「起源意識」は納得させたかったのです。（わたしの物という表現・意味は、「和多志」即ち総ての人の物ということになる）

その志を継ぐには、万物・万権の共用により、差別や区別がなく、総ての「わたし＝起源意識（表現を超越する、ありてあるもの）」が仲良く楽しく生きられる社会を創ることです。これが「自分は誰？（人間とは何か）」の解答に基づく社会です。（起源意識としての使命であり責務、「起源意識国」の創造）

しかしこれに反して、「起源意識」は現在地球上で「自我」となり、自我社会構造（資本主義・市場経済・お金と税金のあり方）を確立し、自らが喘ぎ苦しんでいるのです。

そこで問題は「起源意識」であることを理解できても、実際にどのようにして「起源意識」に戻るかの方法がないということです。（本書はその具体的方法を書いたものです）

本題に入りますと、「起源意識」に回帰するには前述の「我已」の獲得が「自我」形成の根本原因であるがため「私利」・「私欲」・「私略」・「私物」・「私用」・「私語」を、使わずに済む環境の確立が必要になります。しかし、これによって自由がなくなる訳ではありません。（「起源意識」へ生まれ替わればよいだけのこと＝即身成仏：生きながらにして「起源意識」）

「私（わたくし）」という名がありますが、「私」の意味として、「よこしま、ねじ曲がり、一人よがり」と辞書に記載があります。

これは私的な発想、例えば一人だけよければ、何をしようが、何を話そうが、何所へ行こうが関係ないというような考え方を中心に、自慢や自己主張ばかりする「私」という存在（自我）がいることを示していると考えられます。

これに基づき「私（わたくし）」を主張（使用）しない方法で一人ひとりが、「私（自我）」を滅却（「起源意識」への回帰）するのでは苦痛を伴い至難の業です。

また方法そのものが、その性質上「自我」自らが努力することであり、「自我」自らの努力である限り、「自我」として在り続ける事に何ら違いはありません。

つまり根源的な脱皮ができない誤った方法論であると考えられるのです。

しかし、不慣れな経験をすることによって、希に「人体」と「自己」の分離現象を起こす場合があります。（「自己」の範疇を超越した世界と繋がる）しかし、分離した「自己」はどうすればよいか戸惑うばかりなのです。（具体的に何をすればよいか判らない・糸の切れた凧状態で考え方が地に着かなくなる）

例えるならば淡水魚が海水に入れられパニックを起こすようなものです。（過去においてヨーガや瞑想、宗教奥義や儀式によって同様な現象を誘発させる事も可能でしたが、現実の世の中に変化が何もみられない事から推測すれば、現在では形骸化された作法のみで終わっている場合が多いと思われます）

うまい具合にパニックを通過（ブレイクスルー）し、入れられた海水の環境を淡水魚に適した環境に作り替えればよいのですが、パニック状態をブレイクスルーする事は大変困難である為、次のステージ（「起源意識」の完成段階＝世の中の完成）に入るだけのゆとりがなかなか持てないのです。

それどころか最悪の場合には、「自我」が「起源意識」だと思い込む事もありえるのです。

よって、一個人や一集団でのブレイクスルーでは不完全と言え、全体が「起源意識」である事に気付くように、全体がブレイクスルー出来る方法を考えなくてはならないということです。

ですから共用を基盤にシステム化した生活圏を作れば、「私」という主張や発想を止めることが出来るようになり、この方法ならば害虫「自我」は努力する事なく、「自我」の存在自体が薄れていき衰弱（消滅）させる事が可能であると考えられるのです。（全体の完成を目指す）

簡単な例をオタマジャクシ（自己）とカエル（起源意識）に例えれば、オタマジャクシが幾ら大きなオタマジャクシになっても陸地で暮らす事は出来ません。それが成長してカエルになれば陸地で暮らす事など当たり前になります。

カエルにとっての理想は、オタマジャクシとして水の中で暮らす事ではなく、カエルになって水陸両用で暮らす事であり、カエルになる以外に理想に到達する方法はありません。つまり精神面（魂＝人精）の完成が、世界を替えるきっかけとなる訳です。

即ちオタマジャクシにとっての理想世界が現在あっても、カエルにとっての理想世界は未だないのです。（現在の世界は虚偽であり過程であることになる）

わたしたちが成長して「起源意識」になるということは、まさにオタマジャクシとカエルの例え話そのものということです。

であるならば、オタマジャクシ（自己）のままカエル（起源意識）の真似をさせるのではなく、カエル（起源意識）になれる世界を創る事が最も重要であるという事になります。（理想が叶う世界がないので、これから創らなければならない）

これに反して世の中を替える事なく携帯端末や人体にマイクロチップを埋入して、マインドコントロールや情報操作による地球規模の人類監視システムでは、総ての人々をカエル（起源意識）にさせず、オタマジャクシ（自己）として飼育する事になります。しかし総ての人が、カエルである限り、オタマジャクシとしてコントロールしているうちに、コントロールされている側も、している側も精神的に異常をきたしてしまいます。

またオタマジャクシにカエルになる話を聞かせれば、早くカエルになる努力をしたり、カエルの真似をしたがりますが、知識ばかりが多くなり過ぎて頭の大きな大頭ジャクシになり、カエルになりにくくなることでかえって苦痛を与えてしまいます。

「自己（オタマジャクシ）」を鍛えて、立派な「自我（偽カエル）」にするならばこれでいいのですが、「自己」は鍛えなくても時が来れば「起源意識（カエル）」になります。

問題はカエル（「起源意識」カエル）になれる季節（時期・年齢に達しても）になっても、カエルになれないと言う点です。（オタマジャクシは元々カエル）

夏が来てもオタマジャクシのままカエルになれない原因、これが社会構造（資本主義、市場経済、拝物拝金思想などによってもたらされる社会矛盾）にあったのです。

子犬が犬になるのとは異なり、カエルはオタマジャクシ（幼生）というまったく見た目にも、機能的にも、異なった段階を経てカエルになります。これと同様に「起源意識」は、目にこそ見えませんが、〇〇さんや〇〇君（幼生）という「起源意識」とはまったく異なった「自己（オタマジャクシ）」の段階を経て、成長した「起源意識（カエル）」になります。

問題はその過程の中で「我已」ウイルスに感染すると、オタマジャクシでもカエルでもない「自我（オタマガエル＝偽カエル）」になってしまうことです。

ですから本来ならば既にカエルになっているはずが、オタマガエル（自我）になっているのです。（オタマガエルはカエルではないにもかかわらず、カエルになったつもりになる事もある。また、もしもオタマガエルがカエルであると錯覚したならば、世界中は化け物によって支配されることになる）

これを修正する為にはカエル（「自己」をブレイクスルーした人＝利他的な発想が出来る人）に成った人々が、苦痛も無く自然にオタマジャクシやオタマガエルからカエルになれる世界（社会構造）を創ってあげることです。（人情の世）

その方法の有力候補がカエルの世界（「起源意識」の世界）を創り、カエルであった事を体験させて、目覚めさせてあげることではないかと思えます。

カエルの世界を創りカエルとして跳ねさせてあげれば、カエルであった事にきっと目覚めるに違いないと・・・。

これが Uni-Earth City の建設及び地球国の必要性なのです。

現在の〇〇さん、〇〇君ではない本当の自分（起源意識）へと替わらざるをえないように、宗教や世界の国々も夢や理想の実践が出来る地球国（起源意識の国）へと替わらざるを得ない時期がよいよ到来したようです。

「自分は誰？」の解答に基づく社会（地球国）を創らなくてはならない事が理解できる人は、必ず世界を動かす天命（御霊）を持たされた人であり、世界を替える能力を持ち、影響力のある方々です。だからこそ使命を持った人々によって「自我」を形成しなくてもよい社会を創り、総ての人が起源意識として生活を営む事が出来る社会を創らなくてはならないのです。

「起源意識」であったことに気付く（頭・天岩戸が初めから開いていた事に気付く）ことが出来れば、鈍かった魂は研ぎ澄まされ、真眼が開き、「起源意識」の声が聴こえ、「起源意識」が観え、誰もが真理（宇宙の起源・自分の正体）を悟ることができることでしょう。そして「起源意識」として生活し、「起源意識」の言葉で会話を楽しむことが出来るようになってしまうでしょう。

しかし、もしもこれを実行しない場合には、文明の勃興と衰退や経済のインフレとデフレによる犠牲者の創出を繰り返す原因を放置することになり、例え他の惑星へ逃げようが、新天地へ移り住もうが、やがて「自我（害虫の付着した林檎）」によって、腐った林檎箱が作られ林檎は林檎の木ごと全滅する予想は難しくないはずです。

コミュニティ造りで、もしも各コミュニティが異なったシステムで創られた場合、特に教育（何を教えるか）と「自我」排除構造（物の所有形式）において、有機的脈絡のないまま地球上で区々に造られると、再び奪い合いや攻め合いが起こります。（争いの原因を残さない）

従ってコミュニティ造りを実行する前に、地球を一つの単位（地球国）とみなし、理想的な社会構造を提案し、統合性のあるものにしておく必要があると思います。

今こそまさに世の中を創り替える時であり、この大切な時期を逃せば地球は再生能力を失い廃墟となる予想は難くないと思います。（林檎の木が腐る時期の到来）

地球環境破壊による人類存亡の危機が問題であるが故に、地球を一つの単位としてみなし、「自我」を形成しないシステムを完備した新しい国を地球規模で確立する必要があるのではないのでしょうか。

そこで「自由公生主義社会」と「自給圏経済」、「自立維持管理型社会構造」と「お金や税金を必要としない生活空間」を基盤に、「自我」を形成しない社会構造をシステムとして造ることは、総ての人類が「自我」と決別し、人（起源意識）となる最後の手段なのです。

現状に甘んじて地球に住めなくなった時には、社会的地位や名誉、お金や財産など何の役にも立ちません。（現状維持では必ず滅亡）

そもそも公務（公務員の仕事）自体がその性質上、裕福で志の高い方々が自主的に、労力や財を投げ打ちボランティア的に行われるべきものです。

だからこそ、今のうちにお金のある人はお金を出し、知恵のある人は知恵を出し、体力のある人は労力を提供し、理想的な Uni - Earth City をモデル的に造り、見て体験することで広く世界に理解を求めることが大切です。

また税金を必要としない社会へ移行する為には、税金で生活している方々から先に Uni - Earth City へ移動して自立自活し、実質的な減税に貢献していただきながら余暇で国政や県政や市政を行っていただく事が望まれます。

即ち、自らが衣食住を自給しつつ公務をボランティアでこなす。まさに国民に人としての模範を示す事で、公務員（国際的エリート）の鏡となれるはずです。

地球上の文明国で慣例となっている税金を集めて暮らす人（公務員）と税金を払って暮らす人（国民）の二局化及び、資本主義や市場経済などの矛盾が是正（公平化）されない限り、本質的な公平社会の達成はあり得ません。

理想空間 Uni - Earth City は、今後失政により削減される公務員や官僚、減俸されて生活に苦しむ人々、「M&A（Mergers and Acquisitions、企業の合併買収）」などに

よる競争社会から排出される失業者の救済エリアとしての役目を果たします。

犠牲者や自殺者を出すのは革命であり、犠牲を伴わないものが改革であると思います。従って、政策として救済エリアを確保すること無く痛みを与えるような革命は、避けるべきであることも十分認識しておく必要があるはずです。

また政策上グランドデザインやファイナルビジョンが示せないものは、公費の使途も不明確となり、政策とは言えないことも肝に銘じておかねばなりません。

公費を有効活用する意味でも、公害発生型で負の遺産が多い都市構造を改良や改造する方法では、本質的な理想構造社会へのシフトは望めません。新天地に理想に基づく都市を造り、移り住んでいくのが自然なシフト方法であろうと思われま

す。国家があり国民がいて、税金を徴収し公費として使える内に、Uni - Earth City を拡大させていく事ができれば、お金も税金も必要としない社会へ容易にシフト出来ます。

転ばぬ先の杖ではありませんが、国に経済力があるうちに公費を投じて Uni - Earth City を造れば、総ての人に役立つ本物の公共事業を行う事が出来、大恐慌時代のかつての米国経済を救ったニューディール政策をも超える、人類史上最後の大事業となるでしょう。その過程においては総ての業種が潤うことで、人々は喜びながら Uni - Earth City を完成することが出来ます。

また完成に伴って仕事を終える人々（失業者）は、Uni - Earth City に移り住むことで困窮を免れることが出来ます。最終的に Uni - Earth City の完成後は、物づくりから維持管理運営へと社会構造が切り替わることで、延々と地球環境を壊し続けてきた物づくりは終わります。

この移り変わり方法ならば誰も傷つかず痛む者も無く、新たな社会（生活様式）へとシフトできます。

現在抱えている様々な問題は、「起源意識」として生きていないことに端を発し、その背景には限界に近づきつつある市場経済という社会システムが存在します。自給圏経済の確立に基づいた Uni - Earth City を完成させてこそ人類は、「起源意識」であったことに目覚め、人として生きることが出来るようになり、あらゆる問題の解決が可能になります。

一個人という存在に分散していた「起源意識」は、万物と万権を共用する暮らしをすることで自己主張（妄らに「私（わたし）」という名前を呼ばなくてもすむ）をする必要が無くなり、魂（「起源意識」）で繋がる事が出来るようになります。

そして魂（「起源意識」 Crystal Spirit）の和した本物のコミュニティのネットワークが地球を包み込むことで、「起源意識」はあえて「自己（自分）」として分散して存在する必要が無くなり、悠久の時をかけた全体一体で機能できる成長した「起源意識」へと完成することが出来ます。

「起源意識」にさえ戻ることが出来れば、あらゆる諸問題や諸事情は「起源意識」が創ったのですから、解決することなど容易なことなのです。

その為には、人々の精神性の正常化（立て替え）を図る事が最も重要なのです。

XIII. Making of Uni - Earth（地球国建国へ向けて）

新たなる創造のためには、初めに理想の定義（例：共用を基盤として、飢餓や貧困や病気、環境破壊や戦争や犯罪が無く平和で、総ての人が自由公平で仲良く幸せに暮らせる生活環境がシステムとして作られ整備された国）を作成します。

地球規模での統合を目指す場合、地球は狭いようで広く、お互いが地域的にも歴史的にも文化的にも生活様式や思考が全く異なる民族の集合体である事を踏まえ、可能な限り国家や宗教や民族が唱える論説や思想的な部分は参考にしても、それ自体に入ることや、過去の歴史に触れる事は避けることが賢明です。

あくまでも基本は、地球に住む「人として生きる」ための生命維持に重点を置いた生活文明（システム化されたライフラインやインフラなど）のスタンダードを決定することが鍵です。また新たな原理を設定する際、今日までの常識や既成概念が正しければ、世の中はこのような状況には至っていないはずであり、これらにこだわっていたのでは本質的な立て替えなど到底出来ません。

例えば初期段階（early stage）では、いわゆる理想社会に関する理論の構築です。

つまり理想社会を小さなモデル的コミュニティ（Uni - Earth City=理想社会が実現している生活空間）として造れるように、生活文明のスタンダードに基づいた物質的条件設定を行い、これを世界の地域性や気候風土に合わせて改良し、理想的な生活空間として提案することにあります。

また精神的条件設定としては国家や宗教や民族が理想とできる社会構造（政治・経済・教育・税金・お金などのあり方）のスタンダードを提案します。

中間段階（middle stage）では、提案に基づき理想社会を実際に造ることが必要です。スケールの小さくても、理想社会をモデル的コミュニティ（Uni - Earth City）として造り、見て体験することで理想を単なる理想として終わらせるのではなく、実際に達成できることを世界に向けて発信することが必要です。

具体的には提案に基づく Uni - Earth City を生活特区として日本に造り、人々が実際に生活することで理想的な生活空間のあり方（人として生きることの実践）を、世界へ向けてアピールします。その時、世界中がこれを理想社会と認めれば、人として生きることに対する共感（共通認識）が芽生え融合（意識の統合）することが出来ると思います。（本物を目指すならば Uni - Earth City を造り、その中で手本を示す事が一番ですが、Uni - Earth City と基本システムが同じであるならば、コミュニティの名前を変えてランダムに造り始めてもよいのです）

これが実現すれば、人類が目指す世界の融合に向けて物質的な国境は外れ、精神的にはNHKサイエンス・スペシャルで人体小宇宙と例えられたように、個々の頭の中で分裂して形成されてきた小宇宙（自分・自己・人間の意識）が、まさに地球（国家・宗教・民族意識）という小さな枠を超えた大きな宇宙（人としての連帯感）の中で連邦（**Uni - Earth City**のネットワーク=Universe State）として繋がる事が出来ます。

Uni - Earth（地球レベル）から Universe（宇宙レベル）へ、地球という小さな次元から宇宙という大きな次元へと、個々が意識レベルを向上することで、実際に宇宙に浮かぶ小さな惑星としての地球を意識できれば、せめて小さな地球の中だけでも仲良く楽しく暮らしたいと考えられるようになると思います。

これがいわゆる人「起源意識」としての精神面での完成へ向かうスタートとなります。

最終段階（last stage）では、Uni - Earth Cityを世界中へ拡大することで、Uni - Earth Cityの機能は本領を發揮します。

例えば開発途上国や朝鮮民主主義人民共和国、アフガニスタンやイラク、パキスタンやアフリカなどに国際支援活動の一環として、お金や物資での支援のみならず、日本のJICAや国連のHABITATなどによって積み重ねられた経験と技術に基づき、国際協力の下で立地条件に適したUni - Earth Cityを造り、本物の国際貢献を行うことが必要であると思います。（国際協調と協力が必要＝総てが協調と共鳴＝同調）

これらの国々の住民と共に理想的なUni - Earth Cityを造ることで、地元の人々自身がUni - Earth Cityの造り方と、システムの維持管理と運営方法を習得し、必要十分な衣食住をまかなうことができるようになり、飢餓や貧困や差別が本当になく生活環境を造れます。

またこれによって魂の融合ならびに、独立した共同体機能の完成がなされ得ます。

今日まで理想を叶えることが出来なかった国家や宗教や民族という古い概念に対し、理想を叶えることが出来る**新たな概念（原理）**と**実地の経験**は、人の魂を動かすことが出来、理想を具現化する事が可能になると考えられます。

Uni - Earth Cityにおいては**共同創造（co - creation）**が原則であり、そこにおいて人の魂が動くからこそ、既成概念として植えつけられた日本人・中国人・韓国人・アメリカ人などという人種や国籍の持つ意味合いを、根底から問い直す機会をもたらすのです。そうなればUni - Earth Cityという理想都市からUni - Earthという理想の地球、「地球国」へのパラダイムシフトという概念が理解できるようになると考えられます。

人種や国籍の意味がなくなり**国境が外れれば**、地球で一つの同じ住人（地球人）ということが**当たり前**になります。そうなれば地球で一つの国になり、貧富の大きな格差を無くし、飢えることもなく、武器なども必要としない平和な日常生活へと変えることが出来ます。（**国境の具体的撤廃方法**）

これを機に各国の軍隊は国際救助隊へと移行させ、災害や事故に備え地球規模での安全確保に努めればより理想的な世界の実現が出来ます。

だからこそ、一日も早くクリーンでエコロジーな生命維持の為の物質文明のスタンダード、例えば快適な住居があり、飲み水となる水道や温水も利用でき、清潔なトイレがあり、いつでも電気が使え、行きたい所へ行ける交通網があるなど快適な暮らしのあり方を決定し、地球を一つの国と見なし、政治をシステム化し共用制を引かなくてはならないのです。

またこれと平行して魂の浄化も必要であり、皆が地球で生きる同じ人としての教育を行い、情報を提供し、共用し、人として生きることを教え実践することで、いつの間にか地球人として魂が一つになることができます。即ち皆が兄弟（姉妹）であり皆が地球人として一つであるという教育と情報を提供し共有することが大切なのです。

いわば理想的な国家や社会は、説法や教え、修行や洗脳、ましてや強制的（武力・権力・暴力）に作るものではなく、人と人が融合しながら徐々に形成されるべきものであり、これが最も自然な流れ（宇宙自然の法則）であると考えられるからです。（Uni - Earth City による連携）

また新たなプロジェクトを始めるに当たっては、人々の困惑や誤解を避ける工夫が必要です。そのためには最終的に造る理想的な生活空間を、先に Uni - Earth City として造り、見て、体験していただき、新たな生活空間への移住計画も明確に示す努力が必要になると考えられます。

そうすることでプロジェクトの目的は権力や武力などを用いる強引な従来型の統治や支配ではなく、Uni - Earth City として理想的コミュニティを造ることによる、魂の融合であることが容易に理解できると思います。（建国の精神は和と情、仁と信が大切）

Uni - Earth City を造り、地球規模の融合を促す「Making of Uni - Earth」プロジェクトを実行するには、抵抗なく誰もが理想として受け入れざるを得ない、優れたモデルコミュニティ（Uni - Earth City）の提案（グランドデザイン）が不可欠です。

何故ならば理想が実現している Uni - Earth City では、総ての学問は実学として実践され役に立ち、現代の社会が抱える問題の総てが解決されている生活空間であり、各宗教にとっては教義が完結された究極の理想郷でなくてはなりません。

例えば Uni - Earth City は天国や極楽浄土や究極のイスラムの国などであり、どの宗教にとっても理想が達成され完成した生活空間でなくてはならないのです。また民族性などもまったく意識させない生活空間である事が理想です。（宗教と民族による区別や差別の終焉）

また精神（魂）が墮落し切ったこの場に及んで求められることは、全てにおける究極であり、例えば究極のセキュリティは、他の人が所有していない物を所有しない生活環境を、国として作らない限り争いや犯罪を完全に防ぐ事はできません。（究極こそが新しい国を担う）

過去の日本の社会ではこのような環境が実際に存在し、人情味にあふれ、自然発生的な相互互助の精神に支えられ、出る釘（杭）を叩き単独行動を避け、風情や情緒豊かな

世界で全体一体での幸福を育てていました。(現在はこれを失い亡国となりつつある)

そこでまずは人の精神(魂)を立て替えずには理想社会の達成はできません。また同時に物質世界のあり方を再考し、物質を方便として用いることで精神を立て替える方法が理想的と思われます。(現段階まで来ると、詭弁を弄している時間はない)

そのためには、**物質的にも精神的にも究極の理想社会のあり方を示し、世界中の有識者や専門家や学者の先生方にご討議いただき、反論や批判ではなく、より理想的で発展的な改良案や代替案を頂戴する事が必要不可欠**と考えられます。(専門性に富んだユニークなアイデアの公募を行う)

故に「Making of Uni - Earth」の提言は、世界中の宗教・政治・思想・住宅・乗り物・食品・衣料品・メディアなどが揃い、北は北海道、南は沖縄の間に世界中の気候や気象条件が揃い、技術的にも優れた企業が揃い、漢字・英字・ローマ字・ひらがな・カタカナなどで彩られた世界一風変わりな新聞を読み、物質的にも、気象的にも、精神的にも、思想的にも、宗教的にも、あらゆる角度から考察が出来、理想的なコミュニティのあり方を提言できる殆ど全ての材料が揃い、東洋でも無く西洋でもない不思議な国、日本に発信する使命があると考えられます。(歴史的課題「修理固成」成就)

日本という意味は何も日本人と限った事ではなく、日本で暮らした経験がある方や日本を研究した方ならば誰でも発信できるということです。(日本は世界の縮図であり、人の精神性と物質文明の新しいあり方を示す担い手)

理想都市 Uni - Earth City のシステムは、世界の政治・経済・教育・法律など理想的な社会のあり方として地球全域に広がり、コミュニティ造りで培われた技術や精神は、人々の心の中で息づき伝承され、恒久的に理想社会を支えることが出来ると思います。

21 世紀のテーマ「人として生きる」ということは、それほど複雑なことではありません。しかし近年、枝葉に分かれすぎた学問や過剰な程の情報化社会では、簡単なことをわざわざ複雑化し時として本筋が判らなくなる事もあります。

そこでシン・スライシング的な発想も必要ではないかと思われます。(「thin-slicing、シン・スライシング」とは、「ニューヨーカー」誌の専属ライターでもあるマルコ・グラッドウェル氏の著書「ブリンク」によると「最小限の情報をもとに判断を下した場合のほうが、より多くの情報を持つ場合にはできないような賢明な判断が出来る場合がある」、そして「人は意識的に考えることなく思考し、状況をまとめた結果、多量の新しい情報に頼ることなく、蓄積された経験に基づいて物事を決定する」ということを仮説として唱え、この考えが総てではないことを前置きした上で、物事を判断する場合の利点として提唱している)

環境破壊による地球の物質的タイムリミットを考慮し、問題を出来るだけシンプルに考え分析し、早期の解決を行う必要があると思います。

「Uni - Earth City」のような生活形態を提案し実践しているグループは、既に世界中に幾つもありますが、99.999%までは本プロジェクトもこれらと同様です。しかし、

残りの僅か0.001%に大きな違いがあります。それは、〇〇さんや〇〇君などの一人ひとりや、ある特定集団のみが完成するのではなく、「起源意識」の完成をもって一度に総ての人が完成出来る仕組みを備えている点です。

その一つは「Uni - Earth City」が、「自我」を根本的に解決する仕組みを備えているところです。(物質面) もう一つは必ず世界を替えられる方法を用い「自我」を自業自得へと追い込むことで、総ての「自我」から「起源意識」へと一括変換せざるを得ない手段を講じる

ところ(精神面)の二点です。
「自我」の解決という有史以来人類が解決し得なかったこの命題を、今まさに解決できるかどうかの岐路に立っているのです。

XIV. 実践する組織は何

国(邦が本意)というのは人と人が徐々に融合しながら形成される事が理想である事は前述のとおりです。(王に「我」という汚点「、」が付き一切を囲い込む=玉+口=国)

しかし理想がどうであれ「自我」が一旦形成されると、「自我」のままでも何時までもあり続けたいと願うようになります。

これが「自我保存の法則」であり、判っていても止められない原因であることは何度も触れてきました。(ターゲットは各自の頭の中の「自我」)

ですから「Uni - Earth City」を造る必要性を幾ら理解しようとも、絶対に造ろうとはしないのです。これが善を知りながら善と出来ないということです。

つまり諸悪の根源は一個人でもなければ、政治家でも、官僚でも、企業でも、国でもありません。総ては「自我」です。(人を憎まず罪を作る根源を始末する)

即ちあくまでもターゲットは、私利私欲や諸悪の根源となる「自我」です。

人類共通の敵、それが「自我」であり、一人一人が解決しなくてはならない共通命題なのです。敵は自身の中にあり解決できるのは自身だけなのですが、「自我」を解決し易い環境を整えることも重要です。「我己」を消す)

解決には「自我」として生きて、「自我」としてあり続けなくては成らない社会を、総動員で創り替えなければ解決など到底できません。

それには総ての「起源意識」が「自我」を卒業して、成長した「起源意識」へと回帰しなくてはならないのです。「起源意識」を中心に据える)

今回の鍵は「自我」より強い「起源意識」の魂を持つ人(大人)が世界に何人居るか「Uni Earth City」が創造できるかが決定されます。つまりこのプロジェクトは、お金が儲かるわけでも、有名になれるわけでも、社会的な地位が得られるわけでも、ましてや官位に就くような話ではありません。(まったく無名)

見返りを一切期待せず愛と奉仕の精神で自己犠牲をものともせず手弁当で、理想を実行する人や企業や団体がどれ位あるかどうかという事です。

「自我」の解決は「自我」のままでは出来ません。唯一「起源意識」に戻ることで達成されます。

「自我」が強ければ強いほど「自我」の後ろ側（裏側）で育てている「起源意識（己・人精）」は、「自我」を超えるほどの強さを蓄え、やがて「自我」のままではいられなくなる程に成長を遂げます。（大人に成ること）

即ち学問の限界（真理は学問の範疇に無い）を知り、お金の怖さ（人を狂わせる）を知り、生きている意義目的（人の役に立つこと）に目覚め、現在の社会のままでは本音（起源意識として）で生きられないことに気付くということです。

これに気付けば「自我」は自己矛盾に至り、「自我」から「起源意識」へとポールシフト（基軸転換＝悟り）を起こし、「自我」ではなく「起源意識」として見聞きし、考えたりするようになります。簡単に言えば「自我」の臨界点を超え、人として生きる事を選択せざるを得ない到達点に達するという事です。

しかし、ポールシフトを起こさせるだけの強い「自我」を育てるには、「自我」に満足を極めさせる必要性があり、全てにおいて究極の追求を実践するかまたは、頭の中で究極のシュミレーション（追求・探求）する必要があります。

そうすると、とてつもない精神力と体力を要し、現代文明の中においては莫大なお金の投資や浪費を必要とします。

また次々と新しい物が作られ、過大な情報が提供されている現状では、個人個人の「自我」が物欲や欲求を満たしきる前に地球は破壊され、精神的にも疲れ果ててしまいます。大半の人はそのような環境の中に居る内に魂が腐敗します。

従って総ての人々が「起源意識」へシフトするだけの強い「自我」を形成し、「起源意識」へとシフトするだけのゆとりが物質的な意味での地球に、もはやないのです。

また一人一人が幾ら「起源意識」として目覚めても、林檎箱（社会構造）が腐っていたのでは、折角「起源意識」へシフトしても、再び「自我」へと戻ってしまいます。（「自我」として生きなければならない生活環境に毒される）

子犬は犬になるように、「起源意識」の子は初めから「起源意識（岩戸が開いた状態）」として生まれているのですから、「自我（岩戸が閉じた状態）」にならないように「起源意識」として育つ環境さえ整えることが出来れば、「自我」などというややこしい存在を経ってから「起源意識」と成る手間が省けます。（頭に苔がむす前に原点へ戻り、真剣に人の未来を考える）

だからこそ「起源意識」として生まれる「起源意識」を、「起源意識」として育てるための「Uni - Earth City」という保育器が必要になるのです。（人の子を人として育てる環境の確立）

分りやすく言えば、歯を磨かないと虫歯になる事が分っていても、職場や学校では磨

く環境が整っていなかったり、個人個人の判断や生活習慣に委ねられている部分があり、なかなか虫歯の完全抑制が出来ません。そこで諸外国（スウェーデン、アメリカ、シンガポールなど）のように水道水の中にフッ素を入れることで、虫歯予防を個人の判断や生活習慣に委ねるのではなく、虫歯を抑制する社会環境を整え効果的に予防する方法（環境の確立）の選択が賢明であるという事です。（「自我」の解決方法も同様）

但しこれを実行すれば歯科医師の多くが生活に困る事になり、社会保険制度のみならず社会構造全ての改革が必要になります。ですから根源的な改革は全体を替えない限り、矛盾や困惑を生じてしまうのです。（本当の意味での痛みを伴わない聖域無き改革が必要）

そこでこれらの事をふまえると、個々に形成された「自我」の都合に関係なく、総ての「起源意識」の完全救済に向けて人々が力を合わせ「Uni - Earth City」を造らざるをえない、物事の道理として決定的な方法をあみ出す必要があるということです。

それにはまずどのような組織を作り、「Uni - Earth City」の建設を世界中の政府へ促すのかという方法を考えなくてはなりません。

一般的な方法として考えられるのは、NPO 法人や各種法人、宗教団体や思想集団などがありますが、何せ相手が国（「自我」）である事より、これらの組織は国の管理下にある為に効力が全く無く、国は無視する事や組織自体を取り潰す事が容易に出来ます。（勿論、個々でモデル的なものを造り独自でアピールする事は可能）

また組織の人達は自分たちのリーダーの意見は聞きますが、組織以外の者の意見は聞き入れません。また組織も組織に入っている人のみの面倒を見るに過ぎません。これらを組織自我と呼び、国民全体の責務は持つことは出来ないのです。

もっと言うならば、イスラム教の中へキリスト教やユダヤ教が統合されて入る事や、仏教の中へイスラム教が入る事は決して無いという事であり、宗教による統合や融合する方法では不可能という事です。勿論、国連やアメリカ合衆国（世界中の国々を順次合衆国に加える方法）や EU への加入統合など、いずれかによる統合方法も同様であり、これらの組織主導型では到底出来ないのです。

また例え志が貴い世界宗教者連合や世界平和連邦のようなものであっても、誠に残念なことに国（政府機関）ではないので、総ての人を国民として理想へと導く事は出来ないのです。（民間団体は行政機関ではないため法律や憲法を作れない）

即ち総ての宗教を超え、地球上のあらゆる国を超える、今までにない、まったく新たな国（政府機関）を創る必要があるのです。（これが理解されないうちは始まらない）

つまりいかなる宗教団体や思想団体や既存国家など何れにも属さないという事が必須条件になり、いずれかに属せば必ず派閥自我が出来、融合を妨げるのです。

そこで「自我」にストップをかけ「Uni - Earth City」を創るように要請する、国と同等なまったく新しい組織が必要になります。つまり腐った林檎箱の中に組織を作るのではなく、腐った林檎箱を包み込める、より大きな林檎箱を作らなくてはならないとい

うことです。(ビッグスト・アップルボックス)

ただし争う事や利権やお金に関わる事には一切無縁とし、単に理想的な社会「Uni - Earth City」を創るように、世界の政府へ向けて要請する事のみを目的としなくてはなりません。(お金や利権に関われば、「自我」が発生)

その組織(国)が Universe State 宇宙国(「起源意識」の国)なのです。

「起源意識」の国(宇宙国)は、実際に宇宙の歴史の中で最も古く、宇宙誕生以前からその存在はありました。(表現方法を超越した邦)しかし、「自分は誰？」なのかを忘れると同時に、その存在も忘れ去られてしまいました。

「起源意識」は「物」と「名」で出来た世界を、「起源意識」の世界である区別(人体の特徴に囚われない)も差別(名前の違いにも囚われない)も無い「はじめ」の世界と同じ秩序を有する完成社会とする事が目的なのです。(修理固成)

「起源意識」がどのようにして、宇宙国政府を創るのか疑問に思われるかもしれませんが、国の成り立ちを根源的なところに立ち返ってみればとても簡単なことなのです。

国づくりは、近年にみるイラク暫定政府やアメリカ合衆国政府や日本国政府が出来た時を振り返ってみるとよく分かりますが、許可を取る必要も申請を出す必要も、ましてや民に御伺いを立てる必要も全くなく、国づくりを思い立った人々により、時満ちた歴史の臨界点において実行されてきたのが常でした。しかも多くの場合が数人から数十人で行われています。

また憲法や法律は国が出来てから作られるものであり、国づくりは法律以前であり、創った者勝ちといっても過言ではありません。(総ての人の命の尊厳と自由と公平の為ならば)

国の成立条件は、政府を創り、領土を有し、国民の存在と憲法の施行です。ある日、誰のものでもない所(土地・地域)に政府が創られ、領土(領域)が定められ、その中に居る人々は国民とされ、政府を創った人々が憲法を施行することで国は出来るのです。

(国は元々資本金ゼロの株式会社・「物盗りは盗人だが、国盗は盗人にあらず」とは豊臣秀吉の弁)

もっとあからさまに言うと、建国後は何も考えない国民から金(税金)を集めて、国を創った仲間での分配方法を決め、国民を教育し、「国」という概念を植えつけ法律を施行し、「国とは何か」などとは考えないように、道具と道楽と娯楽に興じさせれば平和漬けの国が出来上がります。「起源意識」から見るなら、虚構の国家完成)

本来、国というものは総ての人の生命と自由と公平を守る為の組織でした。(「起源意識」の統治システム)

国という概念は大変優れていて、宗教団体や思想団体、各種法人などとは違い、誰もが国に従うことが当たり前であることを、可能な限り矛盾無く教育し納得させるシステムです。ただしこの仕組みを牛耳る者が出てくると、支配者と奴隷の関係が発生し、不平等が始まり争いが起こります。

そして今日、「自我」がこのシステムを乗っ取ったのです。（「自我」が「起源意識」になり代わり、無理やり創った権の統治社会）

国家自体を「自我」に乗っ取られている為にシステム全てが「自我」中心になり、政治家も官僚も国民も総てが「自我」の奴隷となっているのです。

「自我」は国を公と呼び、国としての正義と合法を語っています。ここに「起源意識」の国というものが提唱され、建国されるべき時代的要請があります。これは「自我」にとっては自業自得に値します。「自我」が乗っ取った国家と「起源意識」の国（宇宙国）が同じである限り（両方共に概念）、「起源意識」の国（宇宙国）を否定したり、反論したり、要請を無視したりすれば即、自己否定をする事態に陥ります。（自己矛盾が起きる）

所詮、国などというものも、人として生きるということも、とても簡単なことなのです。（支配することなく理想を実現できる唯一の方法）

そこで、世の中で最大の領土（地球も領土内）を有する宇宙国の建国をお許し頂き（コンセプトとして）、その中に居る人々総てを宇宙国公務員（「起源意識」の国のその人本来の務め＝天職を果たす）とお考え頂き、宇宙国憲法をもって統治する宇宙国が、何所かに申請を出す事も、誰かに許可を取る事も無く、歴史の必然性が満ちた時に創建されるということがあっても何ら不思議はありません。

宇宙国の成立機序が現在の国と寸分たがわなければ、基本的に現在の国と同じ政府活動が可能であるということです。

理解の可否ではなく物事の原理や道理が同じならば、国の規模（面積や国民数）がどうであろうと関係ありません。例えばバチカン市国などは、面積が東京ディズニーランドと同等で、国民の数は僅か千人程度しか居ないにもかかわらず立派な国家として通用しています。

またイギリスには国民が数十人の国が誕生していますが、大衆の認知度と政治的背景で存在は決定されているようです。

宇宙から地球を眺めてみれば世界の大陸など、例えば北アメリカにして日本の北海道、ユーラシア大陸は日本の本州、オーストラリア大陸にして日本の四国、アフリカ大陸にして日本の九州程度です。また南アメリカにしても台湾程度の規模であり、とにかく現時点での人類のスケールは、あまりにも小さすぎます。

地球を一つの国とみなし気候風土（経度・緯度）を考慮した上で世界を数ブロックに分節化し、多極的でありながら社会の基本構造は Uni - Earth City（小単位の自給圏経済に基づいたコミュニティ）を基盤にしたシステムで維持管理運営を行い、全体としては地球国（Uni - Earth City の連邦、グローバル化による大きな単一政府）となることで皆が地球人となれます。

地球国の中に総ての宗教や国家や民族が入り融合を図る、これが「起源意識」による統合方法です。（「自我」から解放されるための統合）

このような仕事は、本来ならば国連の仕事にもかかわらず、国連も既に「自我」に制されている為に夢のまた夢と考えられます。

皆が同じ人である、世界は一つといいながら、何時までたっても一つになれないのは、上記のような具体的な政策を打ち出さないからです。また仮にその必要性が分かっても実行できない原因は、「自我」による**国家所有**にあり、やはり「自我」を解決するより手立てはありません。（「自我」の封じ込めには決定打が必要）

日本は宗教が異なろうが、思想が異なろうが、人種が違おうがそのようなことにはとられず楽しく仲良く暮らしています。要は皆が楽しく仲良く暮らせる生活環境と文明のスタンダードを決定し、誰もがその恩恵を受けることが出来るようになっていることが重要なのです。（地球上での生命維持方法がテーマ）



世界の縮図は日本地図（地球国）？

人類には言葉があり話し合うことができます。

話し合いで地球国ができれば、「自我」と離別する事が出来ます。

今回、地球国を創るためのコーディネーター役を担う宇宙国（「起源意識」の国）は、非武装、非戦闘的で温和な完全中立国であり**支配者ではありません**。

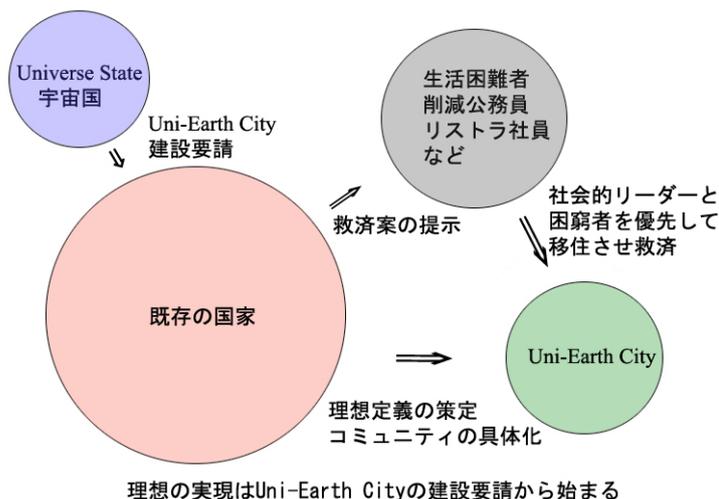
従って一切の武器を持たないが故に強制力や強要は皆無です。よって理想社会（地球国）を作っていただく要請をさせて頂いた上で見守り、世界の国々の人々に良識を問うしかありません。

また宇宙国は最終的にお金を必要としない社会の完成を目指しますので、宇宙国が税金やお金を集める事や利権を奪う事も決してありません。

そして宇宙国公務員は、初めから既存国家の善良なる国民であり、県民であり、小市民です。法律を守り、違反をすれば罰を受け、税金も納め、小市民として現在の国を支え、そして今後もそうあり続ける事に変わりはありません。

同様に地球上の誰であろうと宇宙国（「起源意識」の国）の善良なる国民（公務員）

であり、社会通例でいうなら、宇宙国の要請に従う義務を有するのですが、現実
を受け入れるか否かは、皆様の選択に委ねられます。



ですから宇宙国が地球国を無理強いして創るのではなく、あくまでもお創りいただく
のは既存の世界の政府機関・非政府機関諸々の方々です。

最終的にわたしたちは、世界の国々が総力をあげてお創りいただく地球国の中で、地
球人として暮らすことを望んでいるのです。

そのために宇宙国というものを一度建国する手続きをとり、その宇宙国を通して新た
な理想原理に基づく地球国へとシフトしていただくよう、世界の政府公的機関、地方自
治体、ないし民間団体等に要請をさせて頂いているのです。

また単に要請するだけではなく、Uni - Earth City を各国にお造りいただくためには
相当な公的資金が必要になりますので、既存国の小市民として仕事に励み税金を還元し
て応援できるシステムを提案させて頂きます。

いわば宇宙国政府は、Uni - Earth City ネットワークの拡大推進により地球国が出来
るまでの「起源意識」の代行政府機関であり応援団なのです。

世界各国の多くの人々に宇宙国の要請を受け入れていただければ既存の国家はなくな
りますが、新たな地球国が誕生し世界は大きく変化します。

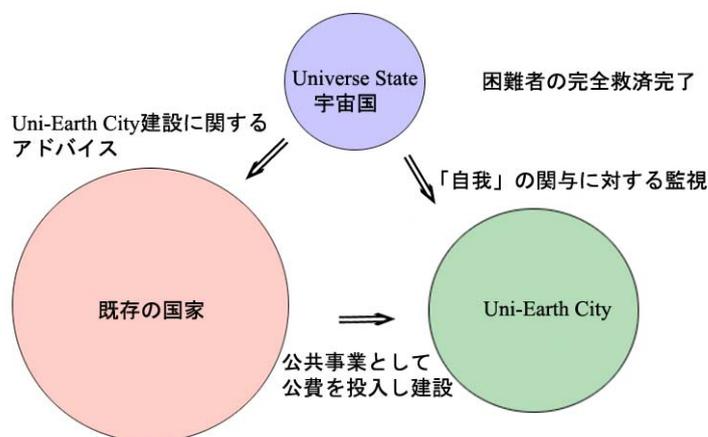
但し前述のように地球国を創るにあたり一つだけ注意が必要です。

地球国を誰かが所有（支配）すれば、「自我」が発生することです。

即ち地球国を創りたいと願う者達が地球国を創り官位に就き、利権構造を作り税金や
使用料を取れば、国のあり方も現状も何も変わらないことになり、再び新たな支配者「自
我」を生む結果になります。（有史以来、繰り返し続いてきた統治の歴史）

これを防ぐには、国を作った組織を最終的に解散し、支配者「自我」を生まない工夫
が必要です。そこで総ての人（「起源意識」）により監督できる、国家運営システムを作
り国として完成しなくてはなりません。いわゆる政治のシステム化を行い「自我」が政
治に関与できないようにすることです。これが出来れば総ての人が未来永劫にわたり、

理想的な世界で暮らす事が出来るようになります。(ミロクの世界)



理想のスタンダードモデルが人々の意識を替える

その為にも宇宙国の使命は、最終的に政治や経済、教育や情報などを、「自我」所有(誰にも所有させない)されないようにシステムとして完成させることです。

こうして支配者の居ない理想的な地球国ができれば、既存の国家と同様に「起源意識」の代行政府機関であった宇宙国も解体され、宇宙国公務員も当初の望み通り地球国の小市民になれます。(「起源意識」を主体とするリベラルな運営)



Uni-Earth Cityのネットワークの中で融合

宇宙国ですら続けていればやがて「自我」へと変化する為、宇宙国公務員には役目を終えたら必ず解体しなくてはならないという徹底した厳しさを要求されます。従って宇宙国のゴールは地球国を創った後に解体することにあります。

即ち宇宙国は初めから解体することを目的としているのです。この方法以外に特権階級や支配者を作らない方法はありません。

よって地球国は、システムによって運営される国であるが故に支配する者は誰も居ません。そのかわりシステムに賛同する一人一人全員に責務が発生します。

ですから地球国は厳密に言えば国でありながら国ではなく、一人一人が連なって出来

ている邦（連邦）になります。（総ての人が地球邦の住人）



地球国が出来る事で理想は実現し一つにまとまる

これこそが人の連邦（国＝邦）であり、人の和なのです。また人の和こそ「わたし・和多志」、即ち「起源意識」そのものなのです。（大きく和する志：大和魂）

和を保った連邦は現在の擬似的な民主主義に対し、本当の意味での民主主義といえます。そして、これこそが自由公生主義の真髄なのです。

ちなみに地球国が出来た場合、世界はどのように変化するかを以下の表にまとめさせて頂きましたのでご参考になさってください。（地球国の建国に伴い変化する世界事情）

	世界各国	地球国
建国	建国者の都合で建国	宇宙国の要請にて建国
人種・国籍	日本人、アメリカ人など様々	総ての人が地球人（世界は一つ）
国	世界各国多数	地球国一つ（皆を幸せに出来る）
憲法・法律	世界各国それぞれ	地球国として統合（公平・自由）
領土	各国で分散	地球全域
統治	各国それぞれの政府	地球国政府
政治	各国の政治家・官僚（「自我」）	システムへ移管（「起源意識」）
主義	資本主義（略奪主義）	自由公生主義（公平分配主義）
経済	市場経済（環境破壊型経済）	自給圏経済（保全安定型経済）
産業構造	生産維持型（大量生産・消費）	自立維持管理型（維持管理運営）
お金と税金	拝金思想・徴収側と支払い側	拜命思想・公生労働（税金無し）
物の所有	国・企業・各種団体・個人	地球国
貧富の差	大きく開く（階層あり）	殆ど無し（差別区別無し）

理想を叶えるための地球国を創る事を妨げてきたのが「自我」です。

ですから「起源意識」であることに気付いた人（「起源意識」へシフトした人）は、

「自我」のままで居る人に「待った！」をかけない限り、「自我」は立ち止まって考える事は決してしないのです。

総ての人は「自我」ではなく、「起源意識」です。

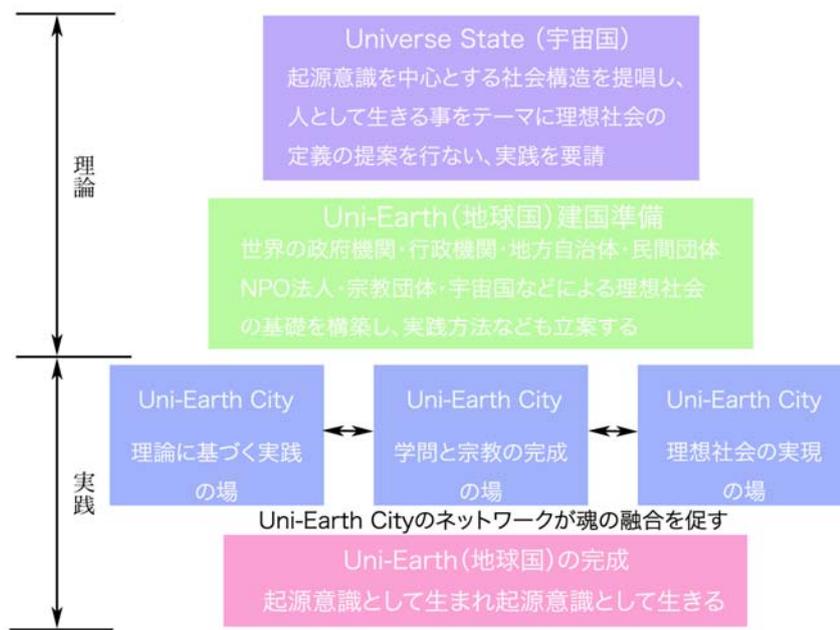
だからこそ立ち止まって「起源意識」であることに目覚めていただきたいのです。

世界中の「自我」に宇宙国から、「待った！」をかけて立ち止まっていただき、「起源意識」として目覚め、地球を統合し、地球国政府を創り、地球国を建国し、総ての人（「起源意識」）が幸せになるように力を合わせていただきたいのです。

過去の歴史において地球で一つの国家を建国し、総ての人を地球人とし、差別や区別の無い、公平な社会を創る具体策があったならば、現在のような世界にはなっていないはずです。（地球国構想と具体的な創造方法）

地球国を建国する事は、本物の理想的な社会を創ることを約束することになります。

この約束が叶えば地球上での敵対関係は根絶され、どのような人であっても地球人として仲良く楽しく暮らせるようになります。（絶対平和の達成）



「自我」は懲りるまで止める事をしません。しかし、今度「自我」が懲りる時は地球が壊れる時であり、その時点では既に遅いのです。

そこで、「宇宙国（「起源意識」の国）はここに、世界の政府公的機関、地方自治体、ないし民間団体等の皆様方に、新たな地球国政府を創り、地球国を建国し、理想社会の礎となる Uni - Earth City を基盤に国を整備し、総ての人が自由で公平に仲良く楽しく、安全に暮らせる地球国（政府）をお創り頂くよう要請の準備を整えている事をお伝え致します。

この要請を受け入れないまま無視していると、世界の秩序は益々混迷を極め、分裂し合った国家システムと虚構の市場経済システムがもたらす社会矛盾により、多くの民衆

が国の要請を無視し、税金の不払いや、法律の無視などが横行し、犯罪、紛争、戦争が益々拡大するようになることが予想されます。

つまり宇宙国の要請を無視しても、受け入れても、既存の国家として生き残る道はないのです。物事の道理は単純なもので、国という仕組みを私利私欲と私略のために乗っ取った「自我」の責任なのです。

今日まで国（「自我」）は国民に対して様々な事を要請し、国民はこれに全て従ってきましたし、今後も国（「自我」）の民（奴隷）として相変わらず従って行かなければなりません。

しかし、わたしたちが既存国家の国民であるのと同様に、総ての「自我」も宇宙国（「起源意識」の国）の国民であるのであり、その要請、即ち全体で一つの和をなすという魂の本質（「起源意識」の本質）に応ずる権利を有しているのです。（和の精神）

現在の社会構造（林檎箱）の延長線では貧富の差が益々拡大することは容易に察しがつき、特に資本主義や市場経済や拝金思想のままに民間化されれば、人としての公という概念は吹き飛び、節操のない未曾有の弱肉強食社会となり、日々戦々恐々とした生活が強いられる事になるでしょう。

いわば「自我」を存続させたままの民間化では「自我」そのものを活性化し、破滅へ向かう事になり、国家は「自我」によって暴走を始め、企業は「自我」により野獣と化す事が予測されるのです。

また「自我」による、武力や国家権力を用いた世界統合や自由化は、総ての人を「奴隷化」し「自我」に完全支配され、「自我」の恐ろしさを思い知らされる事になります。それどころか支配している側も見えない「自我」の手下として使われ、自らも奴隷化され苦しむ結果となり、自らが「自我」である限り最終的には全てを破滅し自らも滅亡するか、永遠の宇宙の孤児となるしか残された道はないのです。

「自我」は弱い者など意に介さないため、弱者は淘汰されるかもしくは、排除される事が予想されます。年金カットや医療福祉費の負担増、ましてや増税となれば、さすがに国（「自我」）に対する反発が強くなることは避けられないと思われまます。

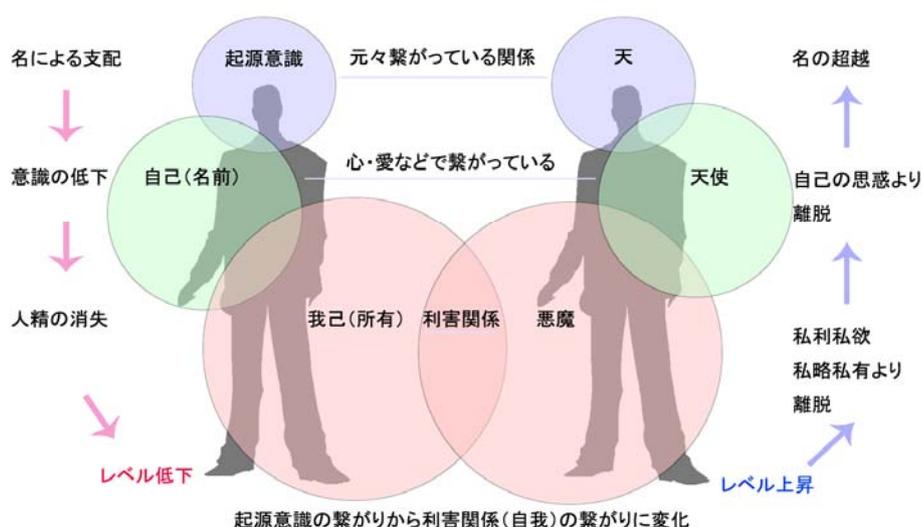
今や世界中の国民は継続する自然環境の悪化や貧富の差の拡大と、富の集中による飢餓や貧困、またこれらに起因する犯罪の増加などによって、生命維持は危機的状態にさらされ本質的な自由や幸福の追求が大きく妨げられています。

世界中の政府（「自我」）はこの打開策を暗中模索しておりますが、打開策が分らないということが分っていないように思われます。

然るに現在の政治形態のままでは貧富の差の拡大、戦争や飢餓の拡大（資本主義の副産物）など、本質的な自由や公平に欠け（利権やお金や税金のあり方）、自然環境破壊（市場経済・物づくり産業構造）がもたらす生命維持環境の悪化など本来の政府の目的や役割とは、かけ離れた方向へ向かっていると思われまます。（新たな世界新秩序が求められる）

また上記の原因が「自我」にある以上これを解決し、「起源意識」を中心とした社会へと立て替えなくてはなりません。(砂上の楼閣で、お金や経済、社会的地位や名誉を問題としている場合ではないのでは?)

人意識のレベル変化



その為には、アメリカ合衆国の独立宣言文にもあるように、今までに無い全く新しい原理に基づく新たな政府を創る時が来たのです。(パラダイムシフトの必要性)

即ち、「起源意識」の御名において、総ての人が「起源意識」として融合できる新しい政府を設け、総ての人が公平に生命維持を行い、本質的な自由を満喫し、平安で楽しく仲良く暮らせる社会を、地球規模で実現できるように政治のシステム化による、支配者の居ないガラス張りの地球国政府を創るということです。

そして総ての「自我」に納得していただいた上で実行していただくこと、これが宇宙国よりの要請であり、人民の権利なのです。(右翼でも左翼でもなく、仲良く)

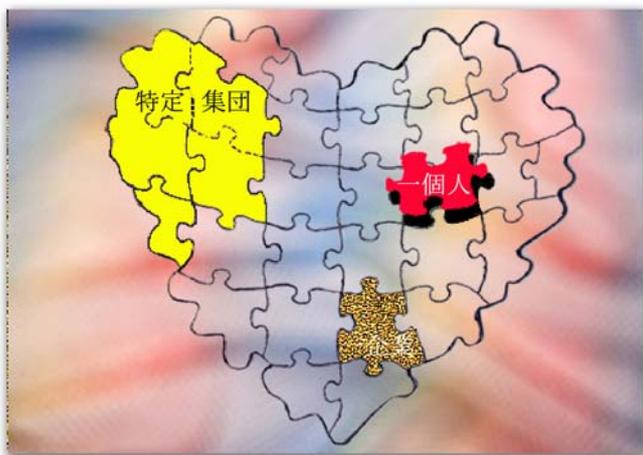
宇宙国(「起源意識」の国・Crystal Spirit country)は、理想的な政府の創り方と、最終的な政府(社会)のあり方を世界の政府をはじめ、世界の被治者が理解し、承諾を得やすくする方法として「Uni - Earth City」という手本(最終的に創る理想社会の理論と実践のモデル)を、先に示してから世界の国々へ要請するのですから、よほどの早とちりでない限りは誤解を招くようなことはないはずです。

あとがき

宇宙の森羅万象、そしてわたしたちの「母なる地球」と「自分」の存在意義は、「起

源意識 (Crystal Spirit)」とは何か (自分は誰)」を「起源意識」自身が問い、「起源意識」としてどのように生き、最終的にどのような人間 (世の中・社会) を創ればよいかの答えを出すためであったことは疑う余地がなさそうです。

総ての人が「起源意識」であるが故に全体一体 (ジグソーパズル) での完成が課題であり、一個人 (パズルの 1 ピース) や特定集団 (パズルの一部分) の完成だけでは「起源意識 (ジグソーパズル)」の完成とは言えないのです。



即ち宇宙は「起源意識」としての完成の場であり、「自我」としての完成の場ではないという事です。

21 世紀に入り人類は優れた文明力を持ち、地球規模に張りめぐらされたインターネットにより、ほとんど同時に情報を共有することが出来るようになりました。いわば「論ずるより産むが易し」という時代背景が整ったと言えます。

最終的には地球国を創って頂くという一個人では到底なし得ない夢のような壮大なプロジェクトです。しかし、これをなす為にはまず各人がそれぞれの分野で「理想として人はどう生きれば良いか」の答えを出し、全体の中の 1 ピースとしての役割 (各々のプロジェクト) を実践する事が大切です。

つまり人の為に実践している事を、素直に世の中に示す事から始めれば良いという事なのです。(実践例：究極の医療とは？究極の住宅とは？究極の水道のあり方とは？など総てにおける究極の理論と実践)

しかし、一個人や一集団や一組織だけで行うことは力量不足のはずで

そこで、それぞれの活動展開を継続しながらも、志を同じくする人々と共に Universe State (宇宙国) として、まとまって活動展開をする必要性があると思います。

即ち一個人 (1 ピース) や、一集団・一組織 (1 パート) が実践しているプロジェクトを、全体 (ジグソーパズル) の中に組み込み、理想の国 (地球国) のあり方として提言するという事です。そしてその国が出来たときには、総ての理想が叶っているという仕組み作りが必要ではないかということです。(総合的方法論)

今まさに理想的なコミュニティ Uni - Earth City を基盤にして地球国 Uni - Earth

を造ることができれば、総ての人が「起源意識」として生まれ、「起源意識」として生きることを可能にする、最後の大きなチャンスが到来しています。

一旦「起源意識（人）」として目覚めれば、生きる目的は達成へと向かい始め一切の問題や矛盾や謎を解決することが可能となります。

また完成した人（「起源意識」）に総ての人が成ることが出来れば、理想社会を恒久的に存続させることも可能になります。

だからこそ可能な限り早く Uni - Earth City を、何処の国にも、何れの宗教にも囚われず、民族性に囚われる事も無く、人として暮らせる場として造り、人（「起源意識」）として生きることのスタンダード（生命維持の基盤整備）を示す必要があります。

これを示す事で世界中の国家や宗教や民族に拘束された既成概念は払拭され、広い宇宙の中で生命が息づき美しく青く輝く小さな地球という星の中で、人と人が仲良く出来る世界を創る重要な一步を踏み出せます。

しかし重要な一步を踏み出す前に、既存の林檎が腐る林檎箱を放置し林檎と林檎の木が腐るのを待つのか、または林檎箱を造り替え素晴らしい林檎が育つ林檎の木を育て、理想的な林檎箱を創り素敵な林檎たちと共に暮らすのかを、国家を動かす人々をはじめ世界中の人々がどちらを選択するのか真剣に問われるときが来ています。（重要な事は人の意識を替えられるかどうかにかかっている）

「人の意識」には二面性がある事は前述の通りで、一つは「良心（「起源意識」）」、一つは「邪心（「自我」）」です。

そこで総ての「起源意識」に地球国の建国の正否をもって本心を問う事にしたのです。

もしも大多数の人々にとって「邪心」が本当の自分の正体で、ここに至ってなお和の世界へ向けて具体的に踏み出す事をせずにいるならば、何度創っても必ず滅びる終末がやってくる為、二度と宇宙を創造する必要はないでしょう。

しかし「良心」が本当の自分の正体ならば「邪心」と決別できるはずで。

さあよいよ最後の審判の到来です。「良心（「起源意識」）」なのか「邪心（「自我」）」なのか…、世界は大きく揺れ、二つに割れその後には答えが出ます。（山羊か羊か？）

この審判は「起源意識」自身の審判です。ですから審判を下すのは、総ての「起源意識」の分身である一人一人です。だからこそ「起源意識」である総ての人々に問う必要があるのです。（自分の頭は自分で審判させられる構造）

常識的に考えれば富裕層の人々が創り替えに賛同するとは到底思えませんが、それは問題ではありません。林檎の木（地球）が朽ちれば富裕層も、誰もが困り苦しむに違いないからです。

また「自我」の性質上、限りない欲望の追求がエスカレートすることで貧富の差は益々拡大し、富裕層は必ず襲われるか、または、より多くの富を求め、お互いが潰し合いやがて疲れ果てることになるからです。（独り勝ちのままでは許されないのが「自我社会」）

本当に造り替えを大勢の人が選択するのならば、早急に新しい林檎箱造りに着手する

必要があります。しかし造り替えを大勢の人々が選択せず、たとえ林檎の木が腐っても現状維持を望むのならば、それは地球環境破壊や核兵器の所有や戦闘行為を容認し、犯罪の増加を黙認することになり、「自我」の言い訳や考え方に甘んじる事を意味します。

(善を善と出来ない)

その場合には幾ら犯罪を起こそうが、戦争になろうが、起こした人のみに罪は無く、林檎が腐る林檎箱(そうせざるを得ない社会環境=「自我社会」)を放置した人々総ての責任になります。

従って「明るい未来」や「クリーン」や「エコロジー」など、詭弁や理想論をいくら語ろうとも、実際に地球国を創り理想社会へ作り替える行動を起こさない限り、地球環境保護活動や平和運動でいくら理想を訴えようとも、「自我」に利用され、まったく無意味な活動展開になってしまいます。

現状に甘んじ現状維持を望む人の数が多ければ所詮大勢(多くの意識の融合)にはかなうはずも無く、いずれは大勢のわがままな林檎達と共に林檎の木を腐敗させ朽ちて行かなければなりません。残念ながら総ての人が「起源意識」であるため、多くの意識が意図する方向へ世の中はシフトしてしまうからです。

そうならば究極の自我社会で勝ち残る方法の検討が真剣に必要となり、国家の保安や防衛または環境悪化に備えてシェルターの準備などの強化がより重要になります。

相手は「自我」なのでからみくびってはいけません。当然、各個人も自己防衛に真剣に取り組まなければなりません。残された時間内で酒池肉林を存分に満悦する方法を講じなくてはなりません。(自分勝手な自由主義の横行や自分達だけの安全確保)

しかし、やがて林檎が腐る林檎箱の中で朽ち果てることでしょう。

今現在はこの方向へひたすら進んでいますが、本当にこれでいいのですか・・・？

いいはずはありません。そのようなことは誰もが望まないはずです。だからこそ「自我」のまま建前の世界で生きるのではなく、「起源意識」として本音の世界で気兼ねも、見せかけも、嘘もない世界を創り、共に生きようではありませんか。

世界を変える具体的な手法(地球国の建国)が示された今、民間人としては、自らが宇宙国(「起源意識」の国)公務員(人の役に立つ責務を担う人)となり、自分の魂(意識)を替え、一人ひとりが「起源意識」として「自分はどう生きるのか?」、「社会をどうしたいのか?」、「今後、地球をどうするのか?」を、「人(起源意識)」として意志表示を明確に行い、責務を担うことです。

このプロジェクトは「地球がもし百人の村だったら」と同様、ある意味での伝言ゲームですので、ご自分から行動を起こしてご参加ください。

但し伝言ゲームにありがちな内容の食い違いや、誤解を招くような内容になっては困ります。そこで(<http://universe-state.com>)にて、本文をプリントアウトしてご活用頂けるように配慮させて頂きましたので、ご利用頂ければ幸いです。(英語版もご用意させて頂いております)

この本には著者もなく、著作権もありません。従ってコピー、複製、翻訳して配布することも自由です。(但し、販売したり、本文の改ざんや書き替えまたは、誤訳はご遠慮ください)

そして志を同じくする人々と共(共でなくても事の重要性が理解できたならば、一人でもすぐ行動に移せます＝実行するあなたこそ世界を救う本物の救世主)に力を合わせ、「Making of Uni - Earth・地球国建国」の要請を政界へ、財界へ、そして世界の様々な人々へと発信し、日本国国民(世界各国の国民)として既存の国家を支え、理想が叶う地球国(「起源意識」の連邦)を創っていただけるように働きかけようではありませんか。(仲間作りより、多くの人への伝言が世界を替える)

また日本国(政府)は、総てが揃う国であるが故に世界の経済を支え、宇宙国(「起源意識」の国)の役目を担い、世界をまとめるコーディネーター(陰の立役者)の役目を果たすべきではないでしょうか。

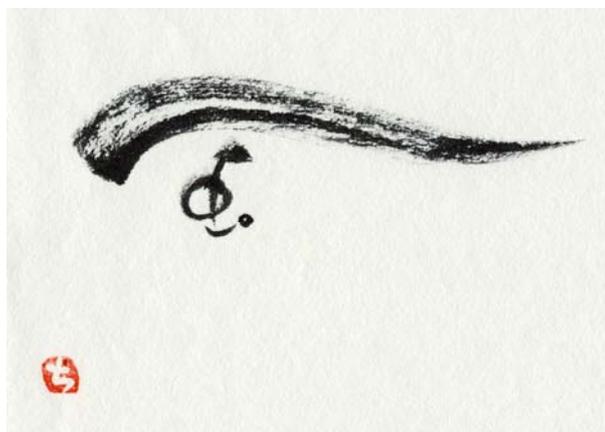
即ち日本国が地球国を創るのではなく、黒子(宇宙国「起源意識の国」となり世界中の国々の音頭を取り、まとめる役目を担う必要があるのです。(こと上げせず、こと代示す)

これにより世界の国々は、一つそしてまた一つと意識が替わり、その国の人々は「起源意識」へと回帰し、その数が臨界点に達した時、総ての人が「起源意識」であることに目覚めるのです。(「起源意識」というジグソーパズルの完成＝修理固成)

全ての始まりは、「宇宙国公務員(「起源意識」として、また世界のコーディネーター)」として、自尊心を持ち責務を果たし世界中の人々の役に立つ事を始めることにあります。それが「起源意識」として生きるという事なのですから・・・

今後、どんな生き方をするかを選択するのは自分自身であり、日本国や世界の国々の選択肢でもあるのです。「起源意識：Crystal Spirit」が巻き起こす21世紀の風、そのテーマは「人：起源意識として生きる」ということなのです。

Universe State Government



宇宙国憲章

地球国を創り和を成し、和をもって貴としとする

- 一.万権の共用：総ての利権を互換性のあるものとして共用し、責任は共有、これをもって公平をなす
- 二.万物の共用：総ての物（人体は除外）を共用し、公平な利用を原則とする
- 三.人の救済：難民の完全救済をもって幸福な社会を成す（HELP:Health, Equal,Love,Peace、総ての人が健康で公平な立場が保証され、一切の見返りを期待しない奉仕と愛により平和は保たれる）
- 四.地球で一つの国家（地球国政府）とし、以後他の国を創らない
- 五.如何なる兵器も生産しない
- 六.「起源意識」である自覚を育む（総ての人の幸福と平安を祈る事が「起源意識」即ち自らの本質を敬い尊び、永久に「起源意識」として生きる）

宇宙国（「起源意識」の国）は、総ての完全救済のため西暦 2003 年 10 月 1 日に宇宙国（「起源意識」の国）として建国の告知がなされています。



実行プロジェクト

——— Making of Uni-Earth は、日々様々な情報を取り込み成長し続けている為、現在発表されている各プロジェクトが、最終提言のものとは限らない可能性もある。U.E.C. が承認し融合していく過程で、各分野で調整を計り、最も理想的な各分野のプロジェクトを提言・実践される事を目標とする。現在、発表の為、調整中のプロジェクトも多数あり、究極的目標である自我形成を抑止できる社会構造を造る為の要とする。又、各分野での提言を広く公認しています。

食のプロジェクト

日本人にとって意味の深い食物である稲（米）のゲノム解読により、稲は世界の食料危機を救う期待をかけられる食物となった。U.E.C.では、環境への負荷が少なく、エネルギー効率が高く、農業と肥料の投入を押さえることができ、生物の多様性を推進する事のできる冬期湛水水田を初めとする稲作や、安全で安心な食物の紹介や推進、スローフードに関する提言も行なっていく。

エネルギーのプロジェクト

21世紀までの化石燃料は限りある資源であると考えられてきた。且つエネルギーを確保するための争いも絶えない。U.E.C.では、本来の宇宙や地球が有しているエネルギー源、及び再生可能なエネルギー源を提言し続けていく。太陽光・小水力・風力・バイオガスなど実際に身近なところで活用され始めているエネルギー源の提唱と、人類が求めてやまない再生可能な永久的なエネルギー源を探求し続けていく。

水のプロジェクト

人体や自然界にリスクのある塩素入りの水道水を見直し、英国で生まれた緩速ろ過処理の水の在り方を提言する。自然の仕組みを上手に利用し、あらゆる生物が活躍して水質が清澄に浄化されるシステムを利用する。人体の60～70%が水分である事からも、人間にとって必要不可欠な水を、安心して安全、安価、且つ美味しく使用できるように、U.E.C.が提唱するプロジェクトである。

住のプロジェクト

人間にとっての「巢」である住宅。環境ホルモンなどに冒されず、且つ機能的で心身ともにリラックスのできる近未来の住宅の在り方を提言していく。そして、器としての住宅の意味だけではなく、その中に暮らす家族が、健全で朗らかな家庭生活を育めるような住まいの在り方を、在宅時間の長い事が多い母親や女性の感性を織り交ぜての提言も行っていく。

教育(共育)のプロジェクト

脳内の神経回路発生には臨界期があり、その臨界期までの一定の時期に、その回路にあった適切な刺激を与える事により、持って生まれた「生きるちから」を、十二分に発揮できるような教育の紹介や、21世紀のグローバルな視点を培う為の「感動」や「感性」を育めるような教育の紹介も行なう。同時に、他者に対する愛情「利他の心」や「和の心」を養えるような感性を次世代に伝えていく提言も行なう。

衣のプロジェクト

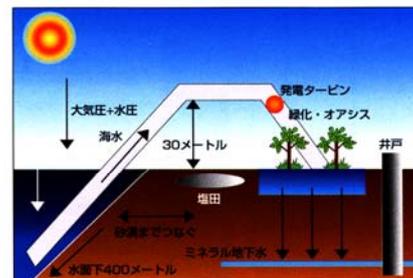
環境や食物の悪化によるアトピーなどの諸問題の克服や、石油からできる製品に頼りがちな衣服を、ヘンプなどに代表される、自然素材の人体にも環境にも優しい素材への転換を提言する。又それらの天然素材が生み出す、環境に優しいプラスチックを初めとする諸製品などにも大きく着目し、無理なく循環と再生を繰り返すことのできる天然素材の可能性を探っていく。

地球再生プロジェクト

様々な原因が積み重なって起こった地球温暖化問題。世界中で、自転車推奨から京都議定書まであらゆる取り組みが行なわれているが、画期的な結果は如何ともしがたい。個人個人の小さな取り組みの積み重ねも、もちろん大きいですが、ガユーナ・セアロの画期的ともいえる地球の冷まし方と、砂漠の緑化方法のアイデアを紹介する。又、その他の地球や人間にとっての「智慧」を随時紹介していく。

通信・交通網のプロジェクト

21世紀の地球に網の目のように広がる、通信・交通網のより良い在り方の提言を行なう。通信に関しては、現在のITの問題解決になるような提言や、生活空間とのネットワーク接続、現実環境の機能強化など。交通網に関しては、石油エネルギー依存問題や、環境汚染の問題、それにとって替わる21世紀型の環境にやさしくて、誰でも・何処でも・いつでも利用できる交通網の在り方の提言などを行なう。





U.E.C.

<http://universe-state.com>